

リアホナ

主のみが
わたしたちの救い主になることが
おできになった, 8ページ

復活を通じて、わたしたちは肉体について
どのような真理を学べるだろうか,
14ページ

性的虐待という重荷からの解放,
22ページ

敵を知る——
サタンの4つの策略に打ち勝つ方法,
30ページ





作業員がスイス・ベルン神殿の看板を建設地に設置している。神殿は、1955年9月にデビッド・O・マッケイ大管長により奉獻された。この神殿は、北アメリカ以外で建てられた最初の神殿であり、英語以外の言語で儀式が行われた最初の神殿だった。

写真 / 教会歴史図書館の厚意により掲載



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
信仰による義人は生きる
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
神権の誓詞と聖約



表紙
「墓を訪れた3人のマリヤ」
ウィリアム・アドルフ・ブグロー画

特集

- 8 救い主の贖罪——
まことのキリスト教の土台
ロバート・D・ヘイルズ長老
主が生きておられるので、わたしたちも皆、再び生きるのです。
- 14 イエス・キリストの復活と
肉体についての真理
デビッド・A・エドワーズ
イエス・キリストの復活は、肉体の持つ永遠の神聖な属性について大切な真理を教えています。
- 22 希望と癒しへの架け橋
ナノン・タリー
あなたや愛する人々が、性的虐待のような忌まわしい、傷を与える経験の後で、どのように平安や希望、癒しを見いだすことができるでしょうか。
- 28 家族の古いアルバム——
家族のストーリーの力
アムネリス・ブスカス
わたしの先祖のストーリーと人生は、わたしを強め続けてくれます。

30 戦いは続く

ラリー・R・ローレンス長老
ローレンス長老は、サタンの4つの策略と、それに打ち勝つ方法を教えてください。

シリーズ

- 20 音楽——主のもとに来たれ
スティーブン・K・ジョーンズとマイケル・F・ムーディー
- 38 信仰の肖像——
スカイドリテ・ボクマ
- 40 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——
神の力
ブルース・R・マッコスキー長老



44 祝福師の祝福を理解する

アリー・アーネルとマーガレット・ウィルデン

祝福師の祝福は、自分だけの地図のようなものです。地図の使い方のこつを紹介します。

48 新しい旅に備える

カーリーナ・マーティンズ・ペレイラ・コレイア・デ・リマ

自分自身の家族を築くことについての疑問や恐れがわたしを不安にさせました。どうしたら平安を見いだすことができるのでしょうか。

50 思いと心で研究するにはどうすればよいのでしょうか

主の方法で疑問への答えを見つけ、聖文をよりよく理解するにはどのようなことでしょうか。

52 自分にぴったりの福音の研究法

自分の福音研究を最大限に生かす方法を学びましょう。

56 教会指導者からの答え——

真の平安を見いだす方法
クエンティン・L・クック長老

57 教会の本は持っていませんでしたが、証は持っていましたが、証は持っていませんでした

アビゲイル・D・フェレル
教会についての情報を皆の前で話そう言われた日、教会の本を何も持って来ていませんでした。わたしのシンプルな言葉は十分でしょうか。

58 彼らは主を見たのです

復活された救い主についての証を読み、どうすればあなたも主の復活の証人になれるかを考えましょう。

62 わたしたちのスペース

63 ポスター——戦い進め キリストの兵士たちよ

64 質疑応答

「どうしたら神がわたしの祈りを聞いてくださっていると分かりますか。」



66 アンドレイと悪い言葉

ジュリー・C・ドナルドソン
たった一度のちょっとした悪い言葉で大変なことにはならないですよね？

68 使徒からの答え——

どうすれば家族を強めることができますでしょうか
デビッド・A・ベドナー長老

69 毎日神殿に備える

ジョイ・D・ジョーンズ
ジョーンズ姉妹がどうやって大切な目標を立てたかを学びましょう。

70 かがやくスター

ジェーン・マクブライド
スターは初めて初等協会に行くのできんちょうしていました。友達を作ることではできませんでしょうか。

72 光となる

エリザベス・ピンボロー
良い友達になる8つの方法

73 教会歴史の登場人物—— 福音を分かち合う

74 イエスについて考える

リンゼイ・タナー
ミアは、せいさんについて学びます。

76 イエスのお話——

イエスはせいさんをあたえてくださった
キム・ウェブ・リード

79 復活祭のユリ



こんげつごう なか
今月号の中に
かく
隠れている
リアホナを
さが
搜しましょう。
ヒント——
それは
かがやきますか。



家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



「彼らは主を見たのです」58 ページ——キリストの証人になるとはどのような意味でしょうか。家族で記事を読み、キリストを目で見なくてもキリストの証人になれる方法について話し合うとよいでしょう。救い主に近づくためのアイデアについて考えるとよいかもしれません。例えば、地域に住む難民に奉仕する機会を探す、聖文研究をしながら救い主の生涯について学ぶ、子守をしてその子供の両親が神殿に参入できるようにする、助けを必要としている友人に手を差し伸べるなどです。mormon.org/easter のビデオを見て、キリストとその復活がわたしたちの生活においてなぜ重要なのかを深く考えてもよいでしょう。

「毎日神殿に備える」69 ページ——ジョイ・D・ジョーンズ姉妹は、神殿に参入する備えとして、神殿を生活の中で優先させ、家族歴史を行うことの大切さについて述べています。家庭の夕べで「家族歴史と神殿の夕べ」を開催することを検討してもよいでしょう。名前の索引作成と家族の記録の探求の方法を学んだり、神殿儀式の重要性について話し合ったり、世界中の神殿の写真を見たりしてもよいでしょう。神殿の近くに住んでいる場合は、神殿の敷地を訪れて、神殿がどのようにわたしたちを天の御父に近づけ、天の御父の愛を感じる助けとなるかについて話し合うこともできます。

インターネットで得られる追加情報

languages.lds.org で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。靈感あふれるメッセージや家庭の夕べのアイデア、友達や家族と分かち合える内容を見つけるために、Facebook.com/liahona.magazine (英語・ポルトガル語・スペイン語) をご覧ください。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- | | | |
|---|-----------------------|-----------------------|
| 証, 34, 50, 57, 58 | 祝福師の祝福, 44 | 天上の戦い, 30 |
| イエス・キリスト, 8, 14, 30, 56, 58, 74, 76, 79 | 贖罪, 8, 22, 74, 76 | 肉体, 14 |
| 祈り, 41, 62, 64 | 神権, 7, 80 | 復活, 8, 14, 58, 76, 79 |
| 癒し, 22 | 信仰, 4, 38, 41, 48, 80 | 復活祭, 14, 58, 76, 79 |
| 永遠の命, 8, 14 | 神殿における礼拝, 69 | 平和, 48, 56, 62, 66 |
| 家族, 28, 42, 48, 68 | 聖餐, 74, 76 | 奉仕, 4, 42, 68 |
| 家族歴史, 28 | 性的虐待, 22 | 模範, 72 |
| 希望, 22, 48 | 聖文研究, 43, 52, 57 | 勇気, 40, 57, 63 |
| 教会歴史, 73 | 聖約, 7 | 友情, 70, 72 |
| 言語, 40, 66 | 聖霊, 50 | 誘惑, 30, 63 |
| | 知識, 50, 52 | 霊的な力, 4, 30, 63, 80 |



大管長会第二顧問
ディーター・F・ウーク
トドルフ管長

信仰による 義人は生きる

律法学者と石鹸職人

神を信じなかった石鹸職人に関するユダヤの古い物語があります。ある日、律法学者とともに歩いていた石鹸職人が言いました。「わたしには理解できないことがあります。わたしたちには何千年も宗教があるのに、悪、腐敗、不正直、不正、苦しみ、飢え、暴力が至る所に見られます。宗教は少しも世の中を良くしていないように思えるのです。そこでお尋ねしたいのですが、宗教は何のためにあるのですか。」

律法学者は、しばらくの間答えずに石鹸職人とともに歩き続けました。やがて二人は、子供たちがほこりまみれで土遊びをしている遊び場に差し掛かりました。

「わたしにも理解できないことがあります」と律法学者は言いました。「あの子供たちを見てください。わたしたちには何千年も石鹸があるのに、あの子供たちは汚れています。石鹸は何のためにあるのですか。」

石鹸職人が答えました。「でも律法学者様、汚れたあの子供たちを引き合いに出して石鹸を責めるのはお門違いです。石鹸は使われなければ、その目的を果たすことはできないのですから。」

律法学者はほほえんで言いました。「そのとおりです。」

わたしたちはどのように生きたらよいのでしょうか

使徒パウロは旧約聖書の預言者の言葉を引用し、信者であることの意味について、端的にこう記しました。「信仰による義人は生きる〔。〕」(ローマ1:17)

この簡潔な言葉から、弱くて影響力を持たない宗教と、人生を変える力を持つ宗教との違いを理解することができるかもしれせん。

しかし、信仰によって生きるとは何かを理解するには、まず信仰とは何かを理解する必要があります。

信仰とは、単なる信念ではありません。それは、神を完全に信頼し、それに伴う行動を起こすことです。

単なる願望でもありません。

ただ傍観し、うなずき、賛成します、と言うことでもないので。「**信仰による義人は生きる**」とは、信仰によって導かれ、進むべき方向が示されることを意味します。わたしたちは自らの信仰と調和した行動をします。盲目的な従順によって行うものではありません。神への信頼と心からの愛によって、また神がその子供たちに明らかにされた、きわめて貴い知恵によって行動するのです。

信仰には行動が伴わなければなりません。そうでなければ、そこに命はないのです。(ヤコブ2:17参照)それを信仰と呼ぶことなど到底できません。人ひとりさえ変える力のないものに、世界を変えることなどできないのです。

信仰のある男女は、確信が持てないときでも、また物事が完全に見えず、はっきりと理解できない疑いと逆境のときでさえ、憐れみ深い天の御父を信頼します。

信仰のある男女は、弟子としての道を熱心に歩み、愛する救い主イエス・キリストの模範に従うべく努めます。信仰は、わたしたちの心を天に向けるように、また同胞に進んで手を差し伸べ、彼らを高め、祝福するように励まし、実に靈感を与えてくれるのです。

行いのない宗教は、箱に入ったままの石鹸のようなものです。素晴らしい可能性を秘めているにもかかわらず、実際には、意図された目的に使われるまで何の影響力も発揮できないのです。イエス・キリストの回復された福音は、行動の福音です。イエス・キリストの教会は、希望、信仰、慈愛のメッセージである真の宗教を教えています、それには霊的にも物質的にもわたしたちの同胞を助けることが含まれるのです。

数か月前、妻のハリエットとわたしは、子供の数人とともに



ギリシャ、アテネ近郊の難民キャンプを訪れるウークトドルフ管長とその娘アンディー。

地中海沿岸地域へ家族旅行に行きました。そこで幾つかの難民キャンプを訪れ、戦争で荒廃した国から来た家族と会いました。彼らは末日聖徒ではありませんでしたが、わたしたちの兄弟姉妹であり、緊急に助けを必要としていました。この教会の会員の生きた信仰が、宗教、国籍、教養に関係なく、窮地にある同胞をいかに支援し、安堵と希望をもたらしているかをじかに経験したとき、わたしたちは深い感銘を受けました。

一貫した行動を伴う信仰は、心を親切心で、思いを知恵と理解で、魂を平安と愛で満たしてくれます。

わたしたちの信仰は、周りの人々とわたしたちの双方を祝福し、義にかなった影響をもたらすことができます。

わたしたちの信仰は、この世界を善と平和で満たすことができます。

わたしたちの信仰によって、憎しみを愛に、敵を友に変えることができます。

そのようにして、信仰による義人は行いを伴って生きるのです。すなわち、義人は神を信頼し、神の道を歩む

ことによって生きるのです。

このような信仰こそ、個人を、家族を、国を、そして世界を変えることができるのです。■

このメッセージから教える

信仰とは、単に信念を表明することではないとウークトドルフ管長は説明しています。天の御父とイエス・キリストを信じる真の信仰には、行いが必要です。信仰によって生きることには、人生と家庭を変える力があります。信仰によって生きることからもたらされる祝福と力を目にした経験を分かち合うように、教える人々に勧めてもよいでしょう。個人的な経験でも、周りの人々の経験でもかまいません。福音によりよく従って生きるにはどうすればよいかを知るために、導きを求めて祈るよう励ましてください。

信仰をもって人々に奉仕する

ウークトドルフ管長は、神を信じる信仰には「行動が伴わなければ」ならないと語っています。「一貫した行動を伴う」信仰は「魂を平安と愛で満たしてくれ〔る〕」と管長は説明します。この祝福の約束により、わたしたちは変化を生み出すことができます。信仰に満ちた奉仕を行う時間を取るなら、人生においてそのような変化を目にすることができるのです。毎朝祈りの中で、人に奉仕する機会が得られるようにと主に願うことができます。例えば、きょうだいが当番を果たすのに助けを必要としているときや、友達がだれかに褒めてほしいと思っているとき、それに気づけるよう主に願い求めてください。その後で、促しを受けたときにはそれに従って行動してください。このような祈りと奉仕を習慣とするなら、あなたの誠実で着実な行動は、あなた自身と周りの人々の人生を祝福することでしょう。あなたは「個人を、家族を、国を、そして世界を変えることができる」とウークトドルフ管長は約束しています。



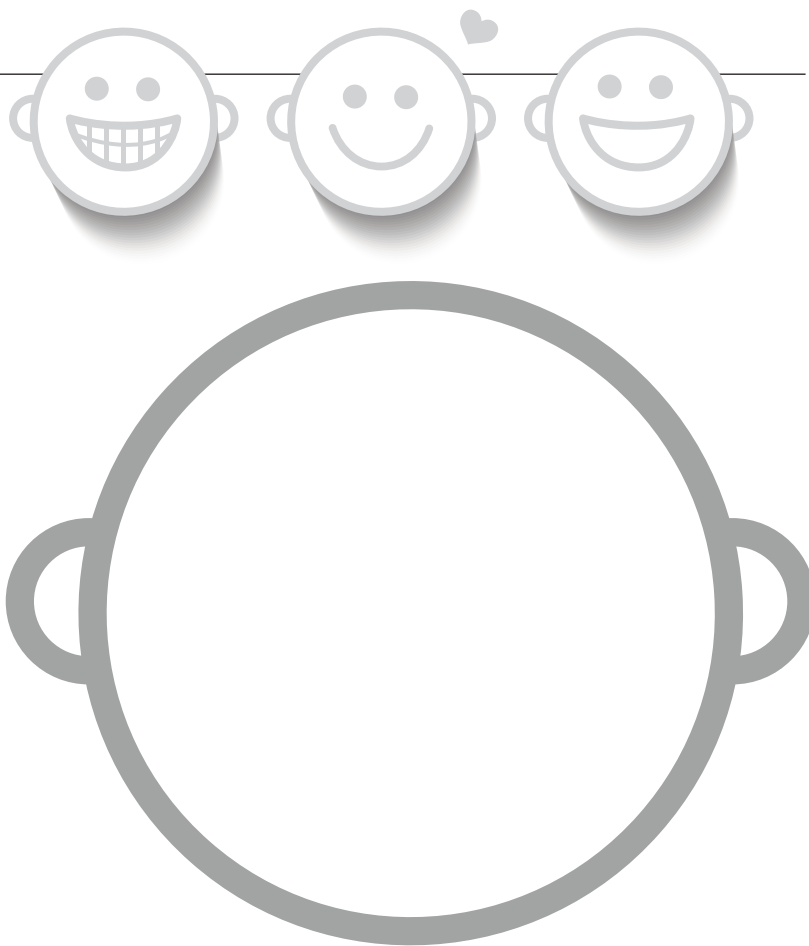
子供

信頼

友達と一緒にこの活動をやってみましょう。
 友達を信頼して、友達が出す指示にしっかりとしたがう必要があります。

片手にペンかえんぴつを持って、目をとじます。
 友達の言うとおりに、この顔に目と鼻と口とかみの毛を描き入れます。終わったら見てみましょう。
 どんな顔になったでしょうか。顔に色をぬり、もう一つ顔をかいて、遊んでみましょう。

指示にしたがうのがむずかしいこともあり
 ます。でも、せいいいの声に耳をかたむけて、
 天のお父様にしたがおうとするなら、天のお父様は助けてくださいます。わたしたちはいつでも、
 天のお父様を信頼することができるのです。



神権の誓詞と聖約

よく祈りながらこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるよう靈感を求めてください。扶助協会の目的を理解することで、神の娘たちはどのように永遠の命の祝福へと備えられるでしょうか。



信仰
家族
扶助

神権の誓詞と聖約はわたしたち個人に適用されます。そのことを理解すればするほど、わたしたち姉妹は神権の祝福と約束を受け入れやすくなるでしょう。

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はこう述べています。「主と神聖な聖約を交わし、それらの聖約を尊ぶ人は皆、個人の啓示と天使の働き¹の祝福を受け、神と親しく交わり、完全な福音を受け、そして最終的には、イエス・キリストとともに御父の持つておられるすべての相続人となるのです。」¹

神権の誓詞と聖約がもたらす祝福と約束は、男性と女性の双方に与えられています。中央扶助協会会長会の顧問を務めたシェリー・L・デュー姉

妹は、「主の宮で受ける最高の儀式に含まれる完全な神権は、夫婦一緒になければ受けられない」と語っています。²

中央扶助協会会長のリンダ・K・バートン姉妹は次のように呼びかけています。「教義と聖約第84章33節から44節にある神権の誓詞と聖約を覚えるように勧めます。そうするときに、神権についてより深く理解できるように聖霊が助け、驚くべき方法で靈感と励ましを与えてくださることを約束します。」³

ジョセフ・スミスが扶助協会に与えた指示には、「神権の特権と祝福と賜物にあずかる」ように女性たちを備えるという意図がありました。これは神殿の儀式を通して達成されます。

「神殿の儀式は神権の儀式ですが、男性や女性に教会の職を授けるものではありません。〔それらの儀式は〕主の民が男女を問わず『高い所から力を授けられる』〔教義と聖約38:32〕という主の約束を成就〔するものなのです〕。』⁴

その他の聖句と資料

教義と聖約 84 : 19 - 40 ; 121 : 45 - 46 ; www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn

注

1. M・ラッセル・バラード「男性と女性と神権の力」『リアホナ』2014年9月号, 36 参照
2. シェリー・L・デューの言葉。「わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業」128で引用
3. リンダ・K・バートン「神権の力——全ての人が享受できる」『リアホナ』2014年6月号, 18
4. 福音のテーマ「神権、神殿および女性についてのジョセフ・スミスの教え」参照、www.lds.org/topics?lang=jpn



考えてみましょう

神権の誓詞と聖約で約束された祝福についてより深く理解し、その祝福を受けけるには、どのようなことができるでしょうか。





十二使徒定員会
ロバート・D・
ヘイルズ長老

救い主の 贖罪

まことのキリスト教の土台

イエス・キリストの贖いの犠牲によって、
わたしたちは皆復活し、不死不滅となります。

預言者ジョセフ・スミス(1805 - 1844年)は、「あなたがたが信じる宗教の基本原則は何ですか」と尋ねられて、こう答えました。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストに立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。」¹

この預言者ジョセフの言葉に、わたしの証も付け加えたいと思います。わたしたちが信じるあらゆる教義の中心は、救い主とその贖いの犠牲、すなわち「神が御自身を低くされること」です(1ニーファイ11:16)。これによって、神はその御子を地上に遣わし、贖罪を完成されたのです。イエス・キリストの生涯の中心となる目的は、贖いの犠牲を完成することでした。贖罪はまことのキリスト教の土台です。

救い主の贖罪が教会とわたしたちの生活における中心的な福音の原則となるのはなぜでしょうか。

信仰箇条1:3

信仰箇条第3条にはこう書かれています。「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」

この文脈での「救われ[る]」は、日の栄えの王国における栄光の最高の位に到達することを意味します。復活はこの世に生を受けたすべての人に与えられますが、永遠の命、すなわち永遠の進歩という完全な祝福を受けるには、個人が律法に従い、儀式を受け、福音の聖約を交わさなければなりません。

イエス・キリストは世の罪を贖われましたが、キリスト以外にそれができなかったのはなぜでしょうか。それは、主のみがすべての条件を満たしておられたからです。

神はイエスを愛し、信頼された

イエスは前世で天の両親からお生まれになりました。天の御父の長子であられました。時の初めから選ばれておられました。御父の御心みこころに従われました。聖文のここかしこに、天の御父が御子のことをお喜びになったことが記されています。

マタイによる福音書にはこう書かれています。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」(マタイ 3:17)

ルカはこう記録しています。「すると雲の中から声があった、『これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け。』」(ルカ 9:35)

また、救い主の復活後、バウンティフルの地にあった神殿で、人々は御父の声を聞きました。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。」(3 ニーファイ 11:7)

特に、イエスがゲツセマネの園で苦しんでおられたとき、御子に対する偉大な愛と哀れみにより、御父が御使いを送って、イエスを慰め、力づけたというくだりを読むと、胸を打たれます(ルカ 22:43 参照)。

イエスは選択の自由を行使して従われた

イエスはわたしたちのために進んで命を捨てなければなりませんでした。

天上の会議で、「黎明の子」ルシフェルは(イザヤ 14:12; 教義と聖約 76:26 - 27) こう言っています。

『御覧ください。わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。わたしはあなたの子となりましょう。そして、わたしは全人類を贖って、一人も失われぬようにしましょう。必ずわたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。』

しかし見よ、初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子は、わたしに、『父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように』と言った。(モーセ 4:1 - 2。アブラハム 3:27 も参照)

御子は、御父とわたしたち一人一人を深く愛しておられたために、こう言われました。「わたしをお遣わしてください。」イエスは、選択の自由を行使して「わたしをお遣わしてください」と言われたのです。

「それはちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。そして、わたしは羊のために命を捨てるのである。……

父は、わたしが自分の命を捨てるから、わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである。だが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである。」(ヨハネ 10:15, 17 - 18)

救い主がお望みになれば、御使いの軍勢が十字架から救い主を降ろして御父のみもとまで直接に連れて行くこともできたのです。しかし、救い主は選択の自由を行使してわたしたちのために自らを犠牲にし、死すべき世での使命を終え、最後まで堪え忍び、贖いの犠牲を完成されました。

イエスは地上に来ることを望まれましたし、その条件も満たしておられました。そして地上に来たときには、こう言われました。「わたしが天から下ってきたのは、自分のこのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」(ヨハネ 6:38)

イエスは予任されていた

ペテロは、イエスは「天地が造られる前から、あらかじめ知られていた」と教えています(1ペテロ 1:19 - 21)。

あらゆる神権時代の預言者が、イエス・キリストの来臨と使命について預言しています。偉大な信仰によって、エノクは救い主の誕生、死、昇天、再臨に関する驚くべき示現を示されました。

「見よ、エノクは、人の子がまことに肉体を取って来られる



「見よ、この人だ」
リチャード・カーク

日を見た。そして、彼は心から喜んで言った。『義なる御方が上げられる。小羊は世の初めからほふられている。……』

すると、主はエノクに、『見なさい』と言われた。そこで、彼が眺めると、人の習わしに従って人の子が十字架に上げられるのが見えた。

また、彼は大きな声を聞いた。天が覆われ、神が創造されたすべてのものが嘆き悲しみ、地がうめき、もろもろの岩が裂けた。また、聖徒たちがよみがえって、人の子の右において栄光の冠を受けた。……

するとエノクは、人の子が御父のもとに昇って行かれるのを見た。……

それからエノクは、人の子が千年の間地上で義のうちに住むために、終わりの時に来られる日を見た。」(モーセ 7: 47, 55 - 56, 59, 65)

キリストがお生まれになる約 75 年前に、アミュレクはこう証しています。「見よ、あなたがたに言う。将来キリストは、御自分の民の背きを御自身に負うために人の子らの中に来られ、世の罪を贖われる。わたしはこのことを知っている。主なる神がそう言われたからである。」(アルマ 34: 8)

イエスはほかのだれにもない条件を備えておられた

イエス・キリストだけが贖いの犠牲を払うことがおできになりました。死すべき体を持った母親マリヤから生まれ、御父から命の力を受けておられたからです(ヨハネ 5: 26 参照)。この命の力によって、イエスは死を克服し、墓の力を無効にし、わたしたちの救い主、仲保者、復活の主とされました。このようにして救いと不死不滅がわたしたち全員に与えられるのです。イエス・キリストの贖いの犠牲によって、わたしたちは皆復活し、不死不滅となります。

イエスは自ら進んで原罪を贖われた

信仰箇条第 2 条にはこうあります。「わたしたちは、人は自分の罪のゆえに罰せられ、アダムの背きのゆえには罰せられないことを信じる。」

わたしたちは、選択の自由を用いて、信仰を行使します。わたしたちは悔い改めることができます。贖いがなければ、悔い改めることはできません。

モーセの書ではこう教えられています。「このことから、『神の御子は最初のとがを贖われ、それによって両親の罪がその子供たちの頭に帰することはあり得ない。』という言葉



「ル」タ灰絵S田ノ、カーク、リチャード論

が人々の間に広まりました。」(モーセ 6: 54)

ニーファイ第二書には、すばらしい教えがあります。

「死がすべての人に及ぶようになったので、大いなる創造主の憐れみに満ちた計画を成就するためには、復活の力が必ずなければならない。その復活は、墮落のゆえに必ず人に及ばなければならない。墮落は背きのゆえに生じたのである。そして、人は墮落したために主の御前から絶たれてしまった。

したがって、贖罪は無限の贖罪でなければならない。もしそれが無限の贖罪でなければ、この朽ちるものが朽ちないものを着ることはできない。したがって、人に下った最初の裁きが限りなく続かなければならない。もしそうならば、この肉体は横たえられ、朽ち果てて母なる大地に返り、もう二度と起き上がることがないに違いない。」(2 ニーファイ 9: 6 - 7)

イエスは唯一完全な御方であられた

教義と聖約で、救い主はこう言っておられます。「父よ、罪を犯したことがなく、あなたが御心にかなうとされた者の、苦しみと死を御覧ください。あなたの子が流した血、すなわち、あなた御自身が栄光を受けるために、あなたが御与えになった者の血を御覧ください。」(教義と聖約 45: 4)

イエスは人間で唯一、罪を犯さず、完全だった御方です。旧約の時代における犠牲とは血のいけにえを意味し、わたしたちの主であり、贖い主であられる御方が、贖いの犠牲を成し遂げるために払われる十字架上の犠牲を象徴していまし

た。古代の神殿で血のいけにえをささげるとき、祭司はあらゆる点で完全な、傷のない子羊を犠牲としてささげました。救い主は聖典の中でその清さのゆえに「神の小羊」と呼ばれることがよくあります（例えば、ヨハネ1：29、36：1ニューフェイス12：6；14：10；教義と聖約88：106を参照）。

ペテロも、わたしたちが贖われたのは、「きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである」と教えています（1ペテロ1：19）。

イエスは世の罪を取り去られた

以下の節を読むと、救い主が贖いを通してわたしたちの罪の代価を払ってくださったことがはっきりと分かります。

「わたしたちは皆、羊のように迷って、各々自分の道に向かって行った。主はわたしたちすべての者の罪惡を彼に負わせられた。」（モーサヤ14：6）

「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。……

もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。

そればかりではなく、わたしたちは、今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。……

すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである。」（ローマ5：8、10－11、19）

「これは、預言者イザヤによって『彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた』と言われた言葉が成就するためである。」（マタイ8：17）

「しかし、神が神でなくなることはなく、憐れみは悔い改める者について権利を主張する。憐れみは贖罪によって与えられるのである。そして、贖罪は死者の復活をもたらし、死者の復活は人を神の御前に連れ戻す。このようにして、人は神の御前に連れ戻され、律法と正義により、自分の行いに応じて裁かれる。……

このようにして神は、世の初めから用意されていた御自分の偉大な永遠の目的を達せられる。そしてこのようにして、人の救いと贖いと、また滅びと不幸が生じるのである。」（アルマ42：23、26）

イエスは最後まで堪え忍ばれた

イエス・キリストは、ゴルゴタにおける十字架上の苦痛だけでなく、様々な試練、苦しみ、犠牲、そしてゲツセマネの苦悩を堪え忍ばれました。そして最後に、「すべてが^{おわ}終わった」と言うことがおできになりました（ヨハネ19：30）。現世における御自身の業を果たし、最後まで堪え忍び、贖いの犠牲を成し遂げられました。

ゲツセマネの園でイエスはこう祈られました。「もしできることでしたらどうか、この杯^{さかずき}をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい。」（マタイ26：39）

教義と聖約では次のように教えています。

「その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」（教義と聖約19：18－19）

イエスは御父にこう言われました。「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。」（ヨハネ17：4）

そして十字架上で、「イエスはそのぶどう酒を受けて、『すべてが終わった』と言われ、首をたれて息をひきとられた」の



「主を心に連れ去ったのでしょゆ」／「カウ・リチャード」

です(ヨハネ19:30)。

イエスは地上に来て、贖いの犠牲を成し遂げることができるよう御自身の神性を保ち、最後まで堪え忍ばれました。

聖餐を通して主を覚える

今日、わたしたちは主と弟子たちとの最後の晩餐で定められたパンと水のしるし、すなわち主の体と血の象徴をもって救い主の犠牲を記念します。

「またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』」

食事ののち、杯も同じ様にして言われた、『この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。』(ルカ22:19-20)

ヨハネによる福音書第11章25節から26節には次のように書かれています。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。』

また、こうも書かれています。「わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは世の命のために与えるわたしの肉である。」(ヨハネ6:51)

「世の命」とは永遠の命を意味します。

わたしたちは、聖餐を取るにふさわしくなり、悔いる心で自分の交わした聖約を更新するために、毎週、自分自身を備え、家族を備えさせる必要があります。

御父と御子はわたしたちを愛しておられる

御父が御子を地上に遣わされたのは、つまり、御子を低くされたのは、御子が十字架に掛かり、なすべきことをすべてなすことができるようにするためでした。ヨハネ書には、次のように記されています。

「イエスは……言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである。』(ヨハネ14:6-7)



「愛がなされ、トマス」/「カーヴリーチャールズ画

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。」

(1ヨハネ4:10)

贖いの供え物は和解または宥和を意味します。

まとめ

この世に生を受け、死すべき肉体を受けるすべての人は復活しますが、昇栄の祝福を受けるためには、忠実、選択の自由、従順、そして悔い改めを通して努力しなければなりません。正義に対する憐れみは、悔い改めを条件に与えられます。

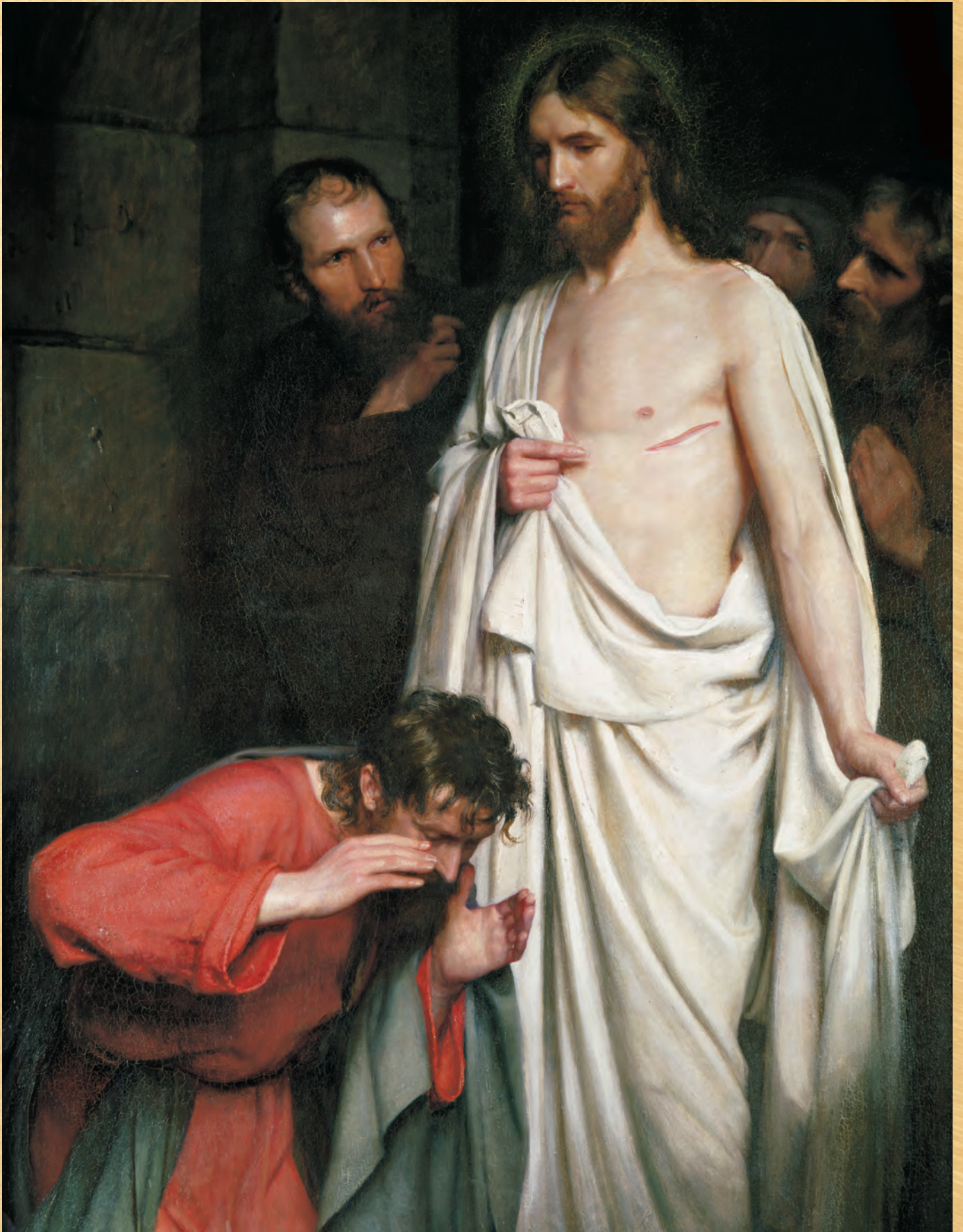
わたしたちは自らの選びによってイエス・キリストに従い、イエス・キリストを贖い主として受け入れたからこそ、バプテスマを受けるときに主の御名を受けるのです。わたしたちは従順の律法を受け入れます。いつも主を覚え、主の戒めを守ります。日曜日に聖餐を受けるときに、その聖約を更新します。

聖約を更新すると、御霊がいつもともにいてくださるといふ約束が与えられます。日々御霊の導きを受け、その導きに従って生活するならば、天の御父と御子イエス・キリストのみもとに戻ることができます。それこそが、御二方がわたしたちのために備えてくださった幸福の計画、すなわち救いの計画なのです。■

2008年6月24日、プロボ宣教師訓練センターにおける新任伝道部会長のためのセミナーで語った説教「贖罪」からの抜粋。

注

1.『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』49-50



イエス・キリストの 復活と

肉体についての 真理

教会機関誌

デビッド・A・エドワーズ

「**イ**エスは……『すべてが^{おわ}った』と言われ、首をたれて息をひきとられた。」(ヨハネ19:30) その瞬間、イエス・キリストの霊は肉体を離れました。すなわち、あらゆる人々の罪を^{あがな}贖い、弱さを持つわたしたちを救うことができるよう、苦しみに耐えた肉体を離れたのです(アルマ7:12-13 参照)。今や空になった肉体は、十字架から降ろされ、亜麻布にくるまれ、やがて墓に横たえられました。3日目に、女性たちはその肉体を埋葬する準備を終えようと墓に向かっていました。

ところが、肉体は消えていました。

空の墓の発見は、事の始まりにすぎませんでした。後に、マグダラのマリヤと使徒をはじめとする大勢の人たちが、奇跡的なものを^ま目の当たりにしました。復活された完全なイエス・キリストが、触れることのできる、人の形^{みすがた}で御姿を表されたのです。

救い主は、復活後に御自分を見た人たちが、御自分の肉体がどのようなものかを完全に理解できるようにされました。例えば、御自分の体に触れるよう使徒を招き、御自分が霊ではなく確かに肉体を持っておられることを

確信できるようにされました(ルカ24:36-40 参照)。¹ さらには、彼らとともに食事もされました(ルカ24:42-43 参照)。

その後使徒たちはイエス・キリストの福音を^の宣べ伝えるという任務を果たすうえで反対や迫害に遭いましたが、それは、イエス・キリストが復活され、その結果すべての人はやがて復活すると教えたためでもありました(使徒4:1-3 参照)。

今日、イエス・キリストの復活は、当時と同じように、主の教会により世界に宣言されているメッセージの中心を成しています。預言者ジョセフ・スミスは次のように述べています。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立て^{あかし}た証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。」²

復活は、神の属性やわたしたちの特性、わたしたちと神との関係、人生の目的、イエス・キリストにおける希望などに関する基本的な疑問に答える助けとなります。イエス・キリス

イエス・キリストは、
復活を通して
肉体に関する
重要な真理を
教えてください
ました。



「**肉**体を持って
いらっしゃる
神という概念を
拒絶すると
いうことは、
死すべき体
をお持ちになった
キリストと
復活された
キリストの両方を
否定するということ
です。」

——ジェフリー・R・
ホランド長老

トの復活により明確に示された真理を幾つか
紹介します。

天の御父は栄光に満ちた肉体をお持ちである

神は人のような姿形をしておられるという
概念は、確かに聖書に根差したものであり、³
一般的に人々もそのような御姿を想像してい
ますが、多くの神学および宗教哲学は伝統的
にその概念を否定し、「肉体も肢体も感情も」
持たない神を支持してきました。⁴ なぜなら、
この見解によれば、肉体（および物質全般）
は悪であり実体のないもので、霊や精神や思
考は、最終的な人の真の構成要素であり、実
体を伴うものだと考えられているためです。

そうだとすると、御子イエス・キリストを
通して明らかにされた神の属性は、どれほど見
事に簡潔かつ革新的だったことでしょう。

救い主は地上で務めを果たしていたとき
に、このように言われました。「わたしを見た
者は、父を見たのである。」（ヨハネ 14：9）こ
のことは、主が完全かつ不死不滅の肉体を
もって復活され、「御父は人間の体と同じよう
に触れることのできる骨肉の体を持っておら
れ〔、〕御子も同様である」ことを示された後
に、さらにその真実性が高まりました（教義と

聖約 130：22）。

天の御父の肉体の属性はこのようにして明
らかにされたのです。ジョセフ・スミスは後
にこのように説明しています。「体や器官のな
いものは無です。天には肉や骨を持っておら
れる神のほかに神はおられません。」⁵

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド
長老はこのように説明しています。「神にと
って肉体を持つことが不必要なだけでなく望ま
しくないのであれば、なぜ人類の贖い主が御
自身の肉体を死と墓から贖われたのですか。
この贖いによって、主の肉体と霊はこの世でも
永遠の世でも決して離れることのないものと
なったのです。肉体を持っていらっしゃる神と
いう概念を拒絶することは、死すべき体をお
持ちになったキリストと復活されたキリストの
両方を否定するということです。」⁶

天の御父は全知全能で、 完全な愛をもっておられる

天の御父の属性が最上のものであること
は、イエス・キリストが復活されたという事実
によっても明らかにされました。十二使徒定
員会のD・トッド・クリストファーソン長老は
このように述べています。「キリストの復活が
現実のものとなったことによって、世を贖うた
めにその独り子を犠牲にされた父なる神の全
知全能と慈愛に対する疑いの根拠がなくなり
ます。」⁷

神の力と知識、美德は、イエス・キリストの
復活により証明されました。キリストの復活
は、天の御父の計画に込められている御父の
知恵と愛、そして計画を遂行する御父（とそ
の御子）の能力の証拠となっています。

わたしたちは神の子である

聖書が教えているように、わたしたちは「神
……のかたちに……、男と女とに」創造され
ました（創世 1：27）。イエス・キリストの復
活はこの真理の真実性を強めています。事実、
イエス・キリストはまさに復活の瞬間に、

わたしたちと天の御父との関係をこのように強調されました。「わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く。」(ヨハネ 20:17, 強調付加)

救い主は、神と人類は本質的にまったく似ても似つかない存在ではないことを明らかにされました。わたしたちの肉体の基本的な形は、わたしたちの霊のそれと似ており、⁸ わたしたちの霊は神にかたどって創造されました。なぜなら、それが親子関係の特質だからです。

肉体は、人に能力を授け、人を高める賜物である

救い主は復活を通して、肉体をもって存在することは、神とその子らという永遠の存在に欠かせない要素であることを示されました。主はジョセフ・スミスに次のように明らかにされました。「元素は永遠であり、分離しないように結合した霊と元素は、満ちみちる喜びを受ける。」(教義と聖約 93:33) この不可分の結合は、霊と物質を結び合わせて、一つの不死不滅の、朽ちることのない、栄光に満ちた、完全な肉体とします。このような肉体以外に、神が持っておられる完全な喜びを受けることのできる肉体はありません。

対照的に、肉体を得た後でそれを離れて霊界に行くと、「死者は、その霊が体から……離れていることを一つの束縛と考え[ます。]」(教義と聖約 138:50。教義と聖約 45:17も参照)

わたしたちの肉体も、天の御父の計画に欠かせない要素であり、神からの賜物です。前世で霊だったわたしたちはこの地上に来たときに、肉体を「付け加えられ」ました(アブラハム 3:26)。預言者ジョセフ・スミスはこのように教えています。「わたしたちがこの地上に来たのは、肉体を得て、日の栄えの王国において神の前にその肉体を清い状態で差し出すためです。偉大な幸福の原則は、肉体を得ることの中にあります。悪魔は肉体を持って

おらず、これが悪魔にとっての罰となっています。」⁹

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老はこのように教えています。「わたしたちは肉体があるおかげで、前世ではどう也得られなかった意義深く感動的な様々な経験をすることができます。そこで、ほかの人との関係、真理を認め真理に従って行動する能力、イエス・キリストの福音の原則と儀式に従う力は、肉体を通してさらに強められます。現世の学びの場において、永遠の生活に備えられるように、優しさ、愛、親切、幸福、悲しみ、失望、苦痛、さらには肉体的な制約という苦難を経験します。簡潔に言えば、聖文に書かれているように『肉において』学ぶべき教訓があり、積むべき経験があるということです。」(1ニーファイ 19:6; アルマ 7:12-13)¹⁰

さらに預言者ジョセフ・スミスは「肉体を持つすべての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つ」と教えています。¹¹ サタンはわたしたちを誘惑することはできますが、強制することはできません。「わたしたちが許さないかぎり、悪魔はわたしたちを支配する力を持ちません。」¹²

わたしたちの
肉体は、
天の御父の計画に
欠かせない
要素であり、
神からの賜物です。
わたしたちの霊は
この地上に
来たときに、
肉体を「付け加え
られ」ました
(アブラハム 3:26)。



結局のところ、完全な復活した肉体の賜物は、わたしたちにサタンの力が永遠に及ばないように助けます。復活がなければ、「わたしたちの霊は、……悪魔……に従うようになり、もはや起き上がることはない。そして、わたしたちの霊は、あの天使のようになっていたに違いない。わたしたちは悪魔の使いである悪霊となって、神の御前^{みまへ}から締め出され、偽りの父とともに、彼自身のように惨めな状態にとどまっていたに違いない。」(2 ニーファイ 9:8-9)

霊と肉体は敵同士ではない

霊と肉体は異なるものの、本質的に異なり、相いれない二つの実体に属するわけではありません。ジョセフ・スミスが学んだように、「実体のない物質というものは存在しない。霊はすべて物質であるが、もっと微細で純粋であり、より清い目によってのみ見分けることができるものである。わたしたちはそれを見ることができない。しかし、体が清められるとき、それがすべて物質であることが分かるであろう。」(教義と聖約 131:7-8)

イエス・キリストは、栄光に満ちた、復活した状態で、「霊と体が人を成す」ことを(教義と聖約 88:15)、霊と肉体の完全な結合を通して示されました。わたしたちはこの世で、「肉の思い」ではなく「霊的な思い」(2 ニーファイ 9:39)を抱けるよう、また「生まれながらの人を捨て」(モーサヤ 3:19)、「激情をすべて制[する]」よう努力します(アルマ 38:12)。しかしこのことは、霊と肉体が敵対するものだけであることを意味するわけではありません。イエス・キリストが示されたように、肉体は、嫌われ、超越されるものではなく、つかさどられ、変容するものです。



死すべき体で送る人生には、意義深い目的がある

この世は試しの生涯であるという概念は、この世の前と後の世界に関する知識について考えるときに、より意味を成します。わたしたちは地球に来る前に霊として生きていました。そして、天の御父はわたしたちがさらに御父に似た者となり、不死不滅の肉体で永遠に生きられるように定められました。これらの真理は、この死すべき肉体にあって過ごす試しの期間は気まぐれなものではなく、真の意味と目的を持ったものだということを示しています。

クリストファーソン長老はこのように説明しています。「自らの選びによって、神のもとから離れ、力、欲求、情熱を伴う肉体をまといながらも日の栄えの律法を実践する決意と能力を神に(そして自分自身に)証明することになったのです。わたしたちは、肉体を制御し、肉体を霊の主人とせず、霊に使われる道具とできるでしょうか。永遠にわたって生命の創造を含む神の力にあずかることができるでしょうか。個人として悪に打ち勝つことができるでしょうか。それを成し遂げた人は『とこしえに栄光をその頭に^{こうべ}付け加えられる』のです[アブラハム 3:26]——。その栄光の非常に重要な側面とは、復活した、不滅の、栄光に満ちた肉体です。』¹³

互いの関係を含め、現在の肉体をまとして経験する事柄は将来経験することと類似しているため、重要な意味を持っています。ジョセフ・スミスが学んだように、「ここでわたしたちの間にある交わりが、そこでもわたしたちの間にある。ただし、その交わりには、わたしたちが今享受していない永遠の栄光が伴う」のです(教義と聖約 130:2)。

わたしたちはイエス・キリストにあって希望を抱いている

空の墓が見つかったとき以来、イエス・キリストの復活は

イ エス・キリストは、
栄光に満ちた、
復活した状態で、
「霊と体が人を成す」ことを
(教義と聖約 88:15)、
霊と肉体の完全な結合を
通して示されました。



空の墓が
空見つかった
とき以来、
イエス・キリストの
復活は希望をもた
らしてきました。
なぜなら、
わたしたちは
主の復活に
自分自身の
将来の姿を
重ねるからです。

希望をもたらしてきました。なぜなら、わたしたちは主の復活に自分自身の将来の姿を重ねるからです。「もし皆さんが忠実であり続けるならば、失ったものは……すべて元どおりにされる」のです。¹⁴

救い主の初期の使徒たちは、主の肉体を見て、触れたために、主の復活を大胆に証^{あかし}することができました。しかし、それだけではありませんでした。イエス・キリストが、罪を赦す力をお持ちであることを示すために肉体の弱さを癒されたように（ルカ5：23 - 25 参照）、イエスの復活は、肉体の死を克服する力をお持ちであることを目に見える形で証立^{あかし}立て、霊の死を克服する力をお持ちであることを弟子たちに確証しました。罪の赦し、この世における平安、御父の王国における永遠の命など、主がその教えの中で与えられた約束は現実のものとなり、弟子たちの信仰は揺るぎないものとなったのです。

「もしキリストがよみがえらなかつたとすれば、[わたしたち]

の信仰は空虚なものとなろう。」（1コリント15：17）しかし、キリストは死人の中からよみがえられたので、「キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命によみがえることを望[む]」ことができます。「キリストを信じることで、約束のとおりこれが果たされるので[す]。」（モロナイ7：41）

イエス・キリストは現世の生涯において、御自分に従うよう人々を招かれました。イエスの死と復活の後、わたしたちの行く末はさらに明確になりました。福音の律法と儀式に従うことによりわたしたちの内にある「日の栄えの霊」を養い、「肉の体であったその同じ体を受け」、「日の栄えの栄光の一部によって生かされ……、その同じものを、すなわちそのすべてを受ける」ことができます（教義と聖約88：28 - 29）。主は道を示してくださいました。主がその道です。主の贖いと復活を通して、主の力によってこそ、この日の栄えの完全な状態が可能となり、復活した肉体で完全な喜びを受けることもできるようになったのです。■

注

1. イエスは新世界の民に御姿を現わされたとき、何千もの人々に「一人ずつ」来て御自分の手と足とわきに触れるようにと言われた。それは、復活された主に触れ、さらに見たことを証できるようにするためだった（3 ニーフай 11：14 - 15；18：25 参照）。
2. 『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』49 - 50
3. 創世1：27；出エジプト33：11；使徒7：56 参照
4. 類似の概念は初期のキリスト教の信条に含まれ

ていたが、この語句の出典は Thirty-Nine Articles of the Anglican Church (1563 年) である。

5. 『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』41 - 42
6. ジェフリー・R・ホランド「唯一のまことの神と、その神がつかわされたイエス・キリスト」『リアホナ』2007 年 11 月号, 41
7. D・トッド・クリストファーソン「イエス・キリストの復活」『リアホナ』2014 年 5 月号, 113 参照
8. 前世におけるイエス・キリストについての啓示は

この事実の証である。なぜなら、イエスの霊が人の形をしていたことを示しているからである（エテル3：16 参照）。

9. 『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』211
10. デビッド・A・ベドナー「わたしたちは純潔を信じる」『リアホナ』2013 年 5 月号, 41
11. 『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』211
12. 『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』214
13. D・トッド・クリストファーソン「なぜ結婚、なぜ家族か」『リアホナ』2015 年 5 月号, 51
14. 『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』51

主のもとに来たれ

詞：ステイブン・K・ジョーンズ

曲：マイケル・F・ムーディー

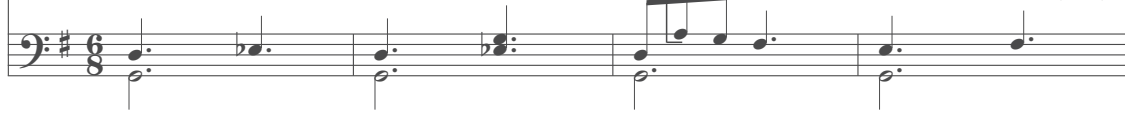
心から ♩ = 44-48



- 1. あ
- (2. ひ)
- (3. か)

mp

R.H.1



5



い ゆ え に し ゆ き た り て ふ れ る す べ て の
と と し て あ ゆ ま れ た し ゆ は す べ て の お
な し み を し り て し ゆ は し ん じ る も の を

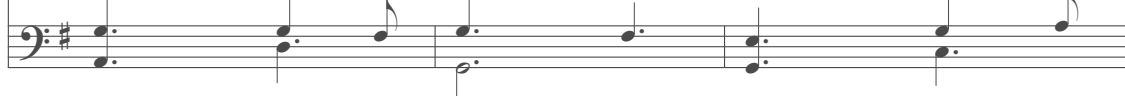


8



こ こ ろ を ひ か ー り で ー み た し た も う か
も ー い と い た ー み を ー み に う け て わ
な ぐ さ め へ り く だ り し た が う も の に

rall.

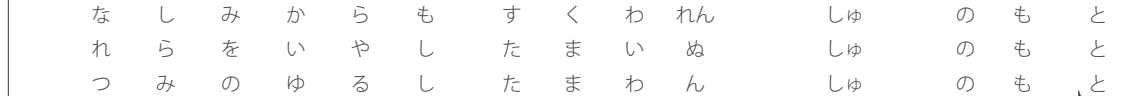


11

a tempo



な し み か ら も す く わ れ ん し ゆ の も と
れ ら を い や し た ま い ぬ し ゆ の も と
つ み の ゆ る し た ま わ ん し ゆ の も と



2



14

に — き た れ ま な ば ん — に ゆ う

17

わ で こ こ ろ へ り く だ る し ゅ に よ り

20

て — — 2. ひ — — し ゅ

3. か — —

23

rall.

の も — と へ —

The musical score consists of four systems, each with a vocal line in treble clef and a piano accompaniment in bass clef. The key signature is one sharp (F#). The first system (measures 14-16) has lyrics 'に — き た れ ま な ば ん — に ゆ う'. The second system (measures 17-19) has lyrics 'わ で こ こ ろ へ り く だ る し ゅ に よ り'. The third system (measures 20-22) has lyrics 'て — — 2. ひ — — し ゅ' and '3. か — —'. The fourth system (measures 23-25) has lyrics 'の も — と へ —' and is marked 'rall.'.

©2016 by Steven K. Jones and Michael F. Moody. All rights reserved.
教会あるいは家庭における一時的また非営利目的に限り、複製することを許可する

二人一人の部、ウォルター・レノ画、教会歴史博物館の厚意により掲載



希望と 癒しへの架け橋

性的虐待の被害者は、適切な援助があれば、心から強く望んでいる癒しを見いだすことができます。

LDS ファミリーサービス、アメリカ合衆国テキサス州
ナノン・タリー

次 のような状況を思い浮かべてください。あなたは崖の端に立っていて、深い峡谷の向こう側へ渡りたいと思っています。大なる幸せがそこであなたを待ち受けていると言われてきたからです。峡谷を渡る方法を探しているときに、あなたはたくさんの資材を見つけます。それを正しく組み立てれば、峡谷を渡る橋を架けることができます。

橋を架ける方法を知らなければ、その資材は無用になります。そして、あなたはいらだちと失望を覚えることでしょう。しかし、橋を架けた経験がある人から助けをもらえば、あなたは知識と理解を深めることができ、一緒にその作業を成し遂げることができます。

この18年間、わたしの仕事は、様々な手段と助言を提供して、人々が情緒的あるいは精神的な苦しみの淵を渡れるように助けることでした。わたしがカウンセリングを行ったすべての人の中で、性的虐待を受けた人たちがほどひどく傷ついて相談に来た人はいなかったと思います。わたしは、最後までよく堪え忍ぶ個人の能力にこの問題が及ぼす大きな影響を目にしました。

また一方で、救い主によって人は苦闘や苦しみから継続的に解放されるということも知るようになりました。救い主はその愛のゆえに、人々を暗闇から光に引き上げてくださいます。

性的虐待がこのような害を引き起こすのはなぜか

虐待の被害者たちは、絶望、自己不信、そのほか深い心の痛みでいっぱいの生活についてわたしに打ち明けます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）は、性的虐待がこのような深い心の痛みを引き起こす理由をわたしたちが理解できるように、こう述べています。

「性的な虐待という恐るべき、よこしまな行為があります。これは理解しがたい行為です。すべての男女に本来備わっているはずの品位を辱める行為です。神から授けられた神聖なものへの違背行為であり、子供たちの人生を破滅させます。ふらちな行為であり、最も厳しい非難を受けて当然のものであります。

子供を性的に虐待する男女は恥を知るべきです。そうすることによって相手に重大な痛手を与えるだけではありません。主の御前に罪ありとされるのです。」¹

生殖の力は、天の御父が御自分の子供たちに与えておられる神聖な天与の力です。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、次のように教えています。「生殖の力には霊的に重要な意味があります。……創造主である天の御父と御子は、御二方の創造の力の一部をわたしたち一人一人に

委ねられました。」² この神聖な力を誤用すれば、「最も激しい非難を受けて当然」であり、「重大な痛手」を被るというのも、不思議ではありません。

痛みについて理解する

性的虐待は、接触あるいは非接触の行為を伴う、相手の思いを無視した関係であり、その行為によって自らの性的満足を得ようとするものです。性的虐待の被害者は、思考が頻繁に混乱し、自分には価値がないという気持ちと恥ずかしいという気持ちを抱くようになります。そのような気持ちはあまりにも重すぎて耐えられないほどです。被害者が経験する痛みと苦しみは、性的虐待とその影響について誤解している人々からの言葉によって深まるものがしばしばあります。偽りを言っていると非難される被害者や、虐待を受けたのは何らかの落ち度があったからだと言われる被害者がいます。虐待を受けたのは何かの罪を犯したからだともいうようで、悔い改めなければならないと間違っただまされる人々もいます。

わたしが対応した、子供時代や青少年時代に性的虐待を受けた依頼人の多くが、「それを乗り越えなさい」「過去のことは忘れなさい」「とにかく^{ゆる}赦して忘れなさい」と言われています。この種の言葉を、特に親しい友人や家族、あるいは教会指導者から言われると、被害者は、癒しと平安を得るよりもむしろますますそれを隠すようになり、恥と感ずるようになります。体のひどい外傷や感染症と同じように、これらの心の傷は、対処しなければ治りません。それどころか、虐待から始まる混乱状態は深まり、その結果生じる心の痛みと併せて、考え方が変わるようになり、ついには不健全な行動を取るようになります。虐待の被害者が自分の受けたのは虐待だと認識することなく、不健全な行動や心の痛みがさらに増すということは、珍しくありません。

ハンナ（仮名）は幼少期に性的虐待を受け、ほかの被害者たちと同じように、自分は何の価値もないひどく悪い人間だという思いを持ちながら大きくなりました。天の御父やほかの人から愛されるのに「ふさわしい状態」ではないという気持ちを抱かないようにするために、ほかの人々に奉仕するように努めながら、生涯の大半を過ごしました。人々と交流する中で、彼女は、相手にほんとうの自分を知られたら、信



じてもらった分だけひどい人間だと思われるのではないかと恐れられました。彼女は拒絶されることをひどく恐れ、やがてその恐怖感から、人生の新しいことに挑戦したり、人に電話をかけるような簡単なことを行ったりしなくなりました。彼女は手工芸の才能に恵まれていましたが、批評に対応できないのを恐れてそれを断念しました。

50年以上の間、彼女は、自分の弱さ、無力感、恐れ、怒り、当惑、恥ずかしさ、寂しさ、孤独を感じながら、毎日様々なことを判断したのでした。

苦痛を平安に換える

救い主は「あらゆる苦痛と苦難と試練」を受けられました。救い主がそうされたのは、「御自分の民を……どのように救うかを肉において知る」ためでした(アルマ7:11-12)。救い主が苦しみを受けられたのは、わたしたちの罪のためだけでなく、わたしたちがほかの人の罪が原因で苦しむときに癒しを得られるようにするためでもありました。

救い主は今日ここにおられたら、かつてニーファイ人とともに涙を流し、彼らを祝福されたように(3 ニーファイ17章参照)、性的虐待を受けた人々とともに涙を流し、その人々を祝福されることでしょう。救い主御自身は今ここにおられませんが、主の御霊はわたしたちとともにいることがおできになります。救い主は、わたしたちが癒しを受け、平安を感じ、人を救えるように方法を備えてくださっているのです。



傷ついている多くの人にとって、自分の感じている苦痛を平安に換えることができるという考えはなかなか信じられないことです。ほかの人々が虐待を受けた人の傷に何年も気づかないということはよくあります。心の傷は、笑顔、ほかの人々を助けようとする気持ち、何ら問題がないかのような生活に覆い隠されます。しかし、苦痛は依然として残っています。

心の癒しのプロセスと肉体のけがの治療と手当てのプロセスとを比較してみましょう。あなたが若いときに足の骨を折ったと仮定します。医師のもとに行って治すことをせずに、足をかばいながら歩き、やがてひどい痛みはなくなります。しかし、足を一歩踏み出す度にいつも少し痛みます。数年後、痛みがなくなってほしいと思い、医師に診てもらいます。医師は骨をつなぎ直し、大きくなった骨の引っ張りを除去し、包帯をします。そして脚を強くするために理学療法士のもとへあなたを行かせます。

同様に、虐待からの癒しのプロセスも、被害者がまずその苦痛は現実であり、それに対して何かを行えるということを認識しなければなりません。

被害者に共通する行動

被害者はしばしば人とかかわりに苦しむことがあります。ほかの人々の承認を絶えず求めることや、受動的になること、傷つくのを避けるために壁を築いて人々と距離を保つこと、性的放縦に走って様々な性的行為(ポルノグラフィや自慰行為など)を求めること、あるいは正反対の態度を取って性にかかわるものを避けることがあるかもしれません。これらの行動を恥じて、親や神権指導者、あるいは専門家に助けを求めようとしないことがよくあります。自分に起こった事柄と自分の行動の関連性を理解していないためです。

福音に従った生活をする中で、被害者は両極端の行動を取る傾向があります。過度に宗教的になる人もいます。ふさわしくないとする事柄を隠そうとして、すべてのことを正しく行おうとします。一方、自分は永遠の命を与えられるのにふさわしくないといい、努力するのを諦める人もいます。

教義と聖約 第 123 章からの 教え

預言者ジョセフ・スミスはミズーリ州リパティエの監獄に留置されていたとき、教会あてに手紙を書きました。それが教義と聖約第 121 - 124 章で、「迫害者に関する聖徒たちの義務」が述べられています（教義と聖約第 123 章の前書き）。預言者は迫害と肉体的危害を被った聖徒たちに、受けた苦痛を口外せずに何事もなかったかのように振る舞いなさいとは言いませんでした。第 123 章で与えられている勧告が虐待の問題にどのように当てはまるかを考えてみてください。



そのプロセスには、何が起こったかを認識すること、そして傷つき、おびえ、悲しく感じた気持ちを自覚し、確認することが含まれます。この癒しのプロセスに関して経験のある専門家に相談すると非常に助けになることがよくあります。（あなたの地域内に LDS ファミリーサービスがあるかどうか神権指導者に問い合わせてください。）

被害者は専門家の助けを得られるか否かにかかわらず、祈り、救い主の生涯と贖罪しよくざいについて学び、神権指導者のもとを定期的に訪れるのが最も重要なことです。神権指導者は重荷を軽くする助けができますし、靈感を受けて人の神聖な価値と天の御父ならびに救い主と人の関係を被害者が理解できるように助けることができます。中央扶助協会会長会第一顧問のキャロル・M・スティーブンズ姉妹は、最近次のように述べました。「癒しへの道のりが長きにわたることもあります。祈りながら導きを求め、正式に聖任された神権者に相談するなど、適切な援助を受けることが必要となるでしょう。率直に話すようにし、自分の限界を正しく見極めていく中で、場合によっては専門的なカウンセリングを受けることもできます。その過程において、霊的な健康を保つことが重要です。」³

ハンナは非常に気詰まりな生活を送るようになり、助けを求めました。彼女は、平安と充足感を感じる生活はできても、常時それを感じるわけではないということ、自分の証あかしから知っていました。祈り、ビショップと話すことによって、カウンセリングを受けるように導かれました。そして、カウンセリングを通じて暗闇から真理をもたらすために必要なものを得ることができ、また独りで背負っていた大きな重荷とともに背負ってもらうことができました。そうすることによって、彼女は苦痛を和らげ、救い主が約束くださった平安を見いだすことができました（ヨハネ 14:27 参照）。この平安や慰めとともに、人を赦す望みと力が湧いたのでした。

赦すことの必要性

虐待の被害者にとって、人を赦すという考え方は受け入れがたいことが多く、誤解されがちです。赦しを、虐待者を見逃すもの、あるいは虐待者の行ったことはもはや何の問題もないと告げるものと考えたとしても、被害者は納得しないでしょう。人を赦すよう命じられているとはいえ（教義と聖約 64:10 参照）、傷の深い状況においては、通常は癒しを得て初めて、被害者は虐待者を完全に赦

することができるのです。

虐待によって引き起こされた苦痛を味わっている人々は、モルモン書からの次の助言に慰めを見いだすことができます。「わたしヤコブは、心の清いあなたがたに述べたい。確固とした思いをもって神に頼り、篤い信仰をもって祈りなさい。そうすれば、神は苦難のときにあなたがたを慰めてくださる。また、あなたがたのことを弁護してくださり、あなたがたを滅ぼそうとする者たちに罰を下される。」(モルモン書ヤコブ3:1) 必要な裁きと賠償を得る権利は主に委ねることが可能であり、そうすれば、主はわたしたちの痛みを平安に換えることがおできになります。

最終的にハンナは、必要な裁きを救い主に委ねることができました。それによって、かつて経験したことの無い平安な気持ちを生活の中で得られることを知ったのでした。以前は、虐待者が同席する家族の集いに参加するのを恐れていました。それが今は、癒しの途上で自発的に大きな心の傷に向き合うことで、彼女はもう虐待者の同席を恐れることなく、年老いた虐待者に同情を示すことさえできるようになっています。

不必要な重荷からの解放

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老(1928 - 2015年)は次のように述べています。「完全な癒しは、イエス・キリストへの信仰によって、また主の力と能力、および贖いを通して与えられます。不義によって強いられてできた傷を癒すのです。……

主は皆さんを愛しておられます。皆さんが不必要な重荷から解放されるように、主は御自身の命を犠牲にされたのです。主が助けてくださいます。主は皆さんを癒す力を持っておられます。」⁴

サタンは、自分が惨めであるため、人々を痛みや苦しみに縛られた状態にしておきたいのです(2ニーファイ2:27参照)。救い主イエス・キリストの助けによって、救い主のみがお与えになることのできる方法で、苦痛は実に平安に換わるのです。そして、わたしたちは喜びをもって生活を送ることができます。「アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。」(2ニーファイ2:25) 喜びをもって生活を送ると、試練の時期をもっと堪え忍べるようになり、学び、成長し、もっと天の御父に似た者となることができます。

ありがたいことに、わたしは自分の生活の中で、虐待によって傷ついた人たちとともに座り、実に救い主によってのみ与えられる癒しの奇跡を目にするという祝福にあずかってきました。苦しんでいるならば、どうぞよく祈って助けを求めてください。独りで大きな重荷を負う必要はありません。救い主が癒しを与えてくださるということを、わたしは知っています。幾度となくそれを目の当たりにしてきたからです。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「子供たちに救いを」『聖徒の道』1995年1月号、62、強調付加
2. デビッド・A・ベドナー「わたしたちは純潔を信じる」『リアホナ』2013年5月号、42
3. キャロル・M・スティーブンス「癒し手であられる主」『リアホナ』2016年11月号、11
4. リチャード・G・スコット「重荷から解放される」『リアホナ』2002年11月号、88

指導者、家族、ならびに友人に対する助言

被害者があなたを信頼して、受けた苦しみと虐待について話すとき、あなたはまず愛を示し、感情移入を行って対話するようにしなければなりません。被害者たちからあまりにも頻繁に言われることがあります。それは、助けを求めてビショップのもとに行くと、加害者を赦す必要があることを最初に強調されたということです。このことで、まるで重要なのは加害者であるかのように被害者に感じさせてしまう可能性があります。このようなことがあると、再びビショップのもとにやって来て助けを求めるのはまれであり、その人は、宗務指導者の愛と支援によって得られるはずの霊的な癒しを受け損ないます。

人を赦すことは癒しのプロセスにおける不可欠な要素であり、戒めです。しかし、まず被害者の苦しみを受け入れ、彼らと気持ちを共有し、信頼できる人と話すようにしてもらえば、やがて癒しに導かれると信じてください。その癒しは、虐待者を赦すことができることから得られるのです。

教会指導者は ministering.lds.org にアクセスして、「虐待一被害者への支援」からもっと多くの情報を得ることができます。

家族の古い アルバム

—— 家族のストーリーの力

先祖の受け継ぎはわたしの中で生き続け、よりよい生活を送れるように影響を与え続けています。

アムネリス・ブスカス

第二次世界大戦前のある夏の朝、曾祖父はいつものように夜明け前に目を覚ました。家の外に出て、青々としたルーマニアの谷と村を見下ろせる丘に行きました。早朝の朝露にぬれた草の上に座り、深く考え込みました。それまで何度となく考えてきたことです。教育があって、寛大な心と好奇心旺盛な曾祖父は、村のみんなに慕われ、尊敬されていました。

いにしへのオルト川の流域にあるその村は、典型的なルーマニアの古い村でした。その古風なたたずまいは、おとぎ話のような風景と相まって独特な美しさを醸し出していました。村では豊かな習慣が育まれ、先祖

から受け継いだ物品や風習を次の世代に伝えるという責任感が自然に根付いていました。

日が昇ると曾祖父は家に帰り、妻に胸の内を打ち明けました。自分の葬式がどんなものか見てみたくてたまらないから生前葬をしたいと告げたのです。彼は葬式の日取りを決め、棺^{ひつぎ}を買い、司祭と泣き屋（訳注——雇われて葬儀などで泣く人）を雇い、ギリシャ正教の伝統に必要な物をすべて用意しました。そして、生前葬の日がやって来ました。村の真ん中には追悼^{うたげ}の宴のためにテーブルが用意され、家族は全員黒の喪服をまとい、神父もやって来ました。曾祖父が棺に横たわり、外の様子が無理なく見えるように枕をずらすと、葬列が始まりました。葬式が終わると村人は皆、宴に招かれ、曾祖父は自分の葬式で踊るといふ夢をかなえることができたのでした。曾祖父はそれから20年生き長らえましたが、棺のサイズが大丈夫か頻繁に確認していたそうです。

単なる名前や日付ではない

曾祖父に会ったことはありませんが、祖父母から聞いたそのストーリーが大好きでした。祖父母は毎日、わたしやきょうだいたちに祖先の話をしてくれました。どこから来て、どんな人だったか、そしてどんな価値観や夢や希望を持っていたかを教えてくれたのです。日曜の夕食後はいつも、祖父母が古い家族のアルバムを取り出しました。ページをめくる



度に語られるストーリーは今も昔も生き生きとしていて、6世代にわたる人々の心が愛の壁掛けのように紡がれていて、時がたっても色あせることはありません。

それは、裏に名前や日付が走り書きされた単なる古い写真ではありませんでした。どの顔の裏にも、父親か母親、息子か娘、きょうだいとしての顔がありました。わたしたちにとって、彼らは希望と夢を抱き、困難と失望、そして成功と失敗を経験した実在の人物です。物理的にもう存在してなくても、彼らのストーリーは今も生き続け、彼らの受け継ぎは輝いています。そして、古い家族のアルバムから彼らは今もほほえみかけ、6世代の人々の心を愛によって繋いでいるのです。

試練の時の強さ

わたしが19歳になるころには、両親も、ほかの家族も世を去っていました。受け継いだ品物の多くはなくなったり、盗まれたりして手もとにありません。けれども、どんな時の流れや自然災害も、そして死でさえ破壊できないものがあります。それは、家族の一人一人が築いてきた過去と現在と未来をつなぐ架け橋です。みんなが熱心に取り組んだおかげで、家族の心を結んでいるその糸は、この世のどんな試練よりも強いことを証明し、困難な状況を打破する強さをわたしに与えてくれました。

両親と祖父母が亡くなったとき、わたしは深い悲しみに打ちひしがれて、前に進み続ける強さが自分にあるのか自信が持てませんでした。しかし、幕の向こうにいる家族の影響力を感ずることができました。そのおかげで死後の生活について揺るぎない証^{あかし}を得ることができ、後に神殿の儀式についても証を得ることができたのです。

わたしは母の顔を覚えていませんし、曾祖父母にも会ったことはありません。けれども、古い家族のアルバムを手にする度に、彼らの目に自分自身が映るのです。わたしが今あるのは、先祖のおかげです。彼らの経験や知恵がわたしの人格形成を助け、人生の道しるべとなって導いてくれたのです。

幕の向こうにいる家族について、そしてわたしがよりよい人生を送れるよう彼らが払ってくれた犠牲について、頻繁に考えます。いつかまた家族として会えるようにしてくれる神殿の儀式についても考えます。そして、これをすべて可能にしてくれたキリストの贖^{あがな}いを思います。わたしたちが生きられるように、主はその代価を払ってくださいました。そのような犠牲に対して、わたしたちは今も、そして永遠に、主を愛し、感謝をささげるのです。■

筆者はアメリカ合衆国ニューヨーク州在住です。





七十人
ラリー・R・
ローレンス長老



戦いは続く

天で始まった戦いは、今もなお続いています。
実際、聖徒が救い主の再臨に備えているために、
この戦いは熾烈しれつになってきています。

海 外のニュースを見ていけば、わたしたちが「戦争と戦争のうわさ」の時代に生きていることにだれもが同意するでしょう（教義と聖約 45：26）。幸いなことに、地上にいる人は皆、戦いの経験者です。生まれる前に前世で始まった戦いで、わたしたちは悪の軍勢と戦ってきたのです。その戦いは、今もなお続いています。

まだ肉体を受けていませんでしたから、わたしたちは天にいたときに剣や銃、爆弾で戦ったわけではありません。しかし、その戦いは現代の戦争に匹敵するほど熾烈で、非常に多くの犠牲者が出ました。

この前世での戦いは、言葉と観念、論争、説得力による戦いでした（黙示 12：7－9、11 参照）。サタンの策略は、人々に恐れを抱かせることでした。恐れは信仰を打ち砕くのに最も効果的な方法だということを、サタンは知っていたのです。次のような論法を用いたのでしょうか。「それは難しすぎる。」「再び清くなることなど不可能だ。」「リスクが多すぎる。」「なぜ、イエス・キリストに頼ればいいなどと言えるのか。」サタンは救い主のことを非常にねたんでいました。

有り難いことに、神の計画はサタンの欺瞞きまんに打ち勝ちました。神の計画には、善悪を判断する選択の自由を人に与えることと、大いなる犠牲が必要でした。イエス・キリストとして知られるエホバは、自ら進んで犠牲となり、全人類の罪のために苦しむことを申し出られたのです。エホバは御自分の弟と妹のために進んで命をささげ、悔い改めた者が再び清くなってついに天の御父のような者になれるようにしてくださいました。（モーセ 4：1－4；アブラハム 3：27 参照。）

天での戦いで、わたしたちは天の御父を愛し、支持しました。
御父になりたいと思いました。

エホバが神の子供たちの心をつかむことがおできになったのは、天使長ミカエルに率いられた支持者たちの力強い証^{あかし}があったからでもありません(黙示 12:7, 11; 教義と聖約 107:54 参照)。前世で、アダムは「ミカエル」と呼ばれ、サタンは「ルシフェル」と呼ばれていました。「ルシフェル」とは、「光を持つ者」という意味です。^{やみ}闇の王子の名前にしては奇妙に思えるかもしれませんが(モーセ 7:26 参照)、聖典では、サタンは堕落する前、「神の前で権威を持っていた神の一天使」だったと教えられています(教義と聖約 76:25 - 28 参照)。

それほど知識と経験を持つ霊が、なぜここまで堕落してしまったのでしょうか。それは、高慢だったからです。ルシフェルは、神の王国を自分のものにしたかったために、天の御父に背きました。

「高ぶりを心せよ」という古典的な説教でエズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994 年)は、ルシフェルは「すべての人に勝る誉れ」を求め、「高慢にも神をその位から退けようとした」²と教えています。皆さんも聞いたことがあるように、サタンは人の選択の自由を損なおうとしましたが、恵みから落ちた理由はそれだけではありません。天から落とされたのは、御父と御子に背いたからです(教義と聖約 76:25; モーセ 4:3 参照)。

なぜわたしたちは悪魔と戦ったのでしょうか。わたしたちは忠誠心から闘いました。天の御父を愛し、支持しました。御父のようにになりたいと思いました。ルシフェルの目的は違いました。神に取って代わりたと思ったのです(イザヤ 14:12 - 14; 2 ニーファイ 24:12 - 14 参照)。サタンの裏切りに、天の両親がどれほど悲しまれたか、想像してみましょう。聖典には「もろもろの天は彼のために泣き悲しんだ」と書かれています(教義と聖約 76:26)。

熾烈な戦いの後、ミカエルとその軍勢が勝利を収めました。天の衆群の3分の2は御父に従うことを選びました(教



義と聖約 29:36 参照)。サタンとそれに従う者たちは天から投げ落とされましたが、直ちに外の暗闇^{くらやみ}に追いやられたわけではありません。彼らはまず、この地上に送られたのです(黙示 12:7 - 9 参照)。地上とは、イエス・キリストが生まれ、贖いの犠牲をささげられることになっていた場所です。

サタンの軍勢は、なぜ地上に来ることを許されたのでしょうか。この地上で試しを受ける者に、反対のものに立ち向かう経験をさせるためです(2 ニーファイ 2:11 参照)。彼らは最終的には外の暗闇に追い出されるのでしょうか。そうです。福千年の後、サタンとその軍勢は、永久に追放されます。

サタンは自分の活動できる時間が限られていることを知っ

ています。イエスが再臨されると、サタンとその使いたちは1,000年の間縛られます(黙示20:1-3;1ニーファイ22:26;教義と聖約101:28参照)。その期限が迫っているため、できるかぎり多くの人を捕らえようと、悪の軍勢は必死に戦っています。

黙示者ヨハネは、大いなる示現の中で、天上の戦いを見せられました。また、サタンが地上に投げ落とされて、人類を誘惑するようになる様子を見ました。ヨハネはこう言っています。「地と海よ、おまえたちはわざわざである。悪魔が、自分の時が短いを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。」(黙示12:12)

では、一刻の猶予もないことを知っているサタンは、残された日々は何をするでしょうか。使徒ペテロは、「悪魔が、ほえたけるししののように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」と述べています(1ペテロ5:8)。

サタンを駆り立てるものは何なのでしょう。サタンは決して肉体を持つことがなく、妻子を持つことも、完全な喜びを得ることも決してありません。だからこそ、あらゆる男女を「自分のように惨めに」してやりたいのです(2ニーファイ2:27)。

悪魔はすべての人を標的にしていますが、特に、永遠の幸福を得る見込みの非常に高い人々をねらいます。昇栄への道を歩む人をねたんでいることは明らかです。サタンは「神の聖徒たちに戦いを挑み、彼らを取り囲む」と聖典は教えています(教義と聖約76:29)。

天で始まった戦いは、今もなお続いています。実際、聖徒が救い主の再臨に備えているために、この戦いは熾烈になってきています。

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこう預言しました。「教会は拡大し、栄え、広がり、発展しますが、地上の国々の間で福音が広がるにつれてサタンの力も強くなるでしょう。」³

わたしたちは悪がこの世の社会に蔓延^{まんえん}するのを見えていますから、この預言が成就していることに異論を挟む人はいないと思います。ヤング大管長は、敵に勝つためには敵の戦略を研究する必要があると教えています。これまでに実証されてきたサタンの4つの策略と、それに打ち勝つためのアイデアを紹介します。

サタンの策略

1. 誘惑。わたしたちに邪悪な考えを抱かせることにか

けて、悪魔は非常に大胆です。モルモン書に述べられているように、サタンは汚れた思いやりのない考えを吹き込み、疑いの種をまきます。癖になるような行動に執拗^{しつよう}に駆り立て、利己的で貪欲な行いを楽しむようそそのかします。そのような考えがどこから来るのかを知られたくないため、「悪魔はいないので、わたしは悪魔ではない」とささやきます(2ニーファイ28:22)。

このあからさまな誘惑に、どうすれば打ち勝つことができるでしょうか。最も効果的な方法の一つは、サタンを追い出すことです。イエスならそうされます。

救い主が山で誘惑をお受けになる話が新約聖書に出てきますが、これは多くのことを教えています。悪魔から誘惑を受ける度に、イエスは、2段階の防御方法を取られました。まず、立ち去るようサタンに命じ、次に、聖文を引用したのです。

一例を挙げましょう。イエスは「サタンよ、退け」と命じ、「『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」と言われました(マタイ4:10)。次の節にはこう記録されています。「そこで、悪魔はイエスを離れ去り、そして、御使^{みつかい}たちがみもとにきて仕えた。」(マタイ4:11) 救い主の防御方法は非常に効果的でした。

ヒーバー・J・グラント大管長(1856-1945年)の伝記には、グラント大管長が若いころどんな方法で悪に立ち向かったかを示唆する記述があります。グラント大管長は、サタンがささやいて自分の心に疑いの種を植え付けようとしていることに気づくと、大きな声で簡潔にこう言ったのです。「悪魔よ、黙れ。」⁴

誘惑に直面したとき、皆さんにはサタンに退けと言う権利があります。聖文はこう教えています。「悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」(ヤコブの手紙4:7)

救い主のもう一つの防御方法は、聖文の引用でした。イエスがされたように、聖文を暗記していると大きな力を発揮することができます。聖句は、霊的な弾薬の備えになるかもしれないのです。

誘惑を受けたら戒めを暗誦^{あんしゅう}しましょう。「安息日を覚えて、これを聖とせよ」「敵を愛[せ]」「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい」などです(出エジプト20:8;ルカ6:27;教義と聖約121:45)。聖文の力はサタンをおじけづかせるだけでなく、皆さんの心に御霊^{みたま}を招き、皆さんに安心感を与え、皆さんを誘惑から守ります。



2. 偽りと欺き。聖文は、サタンが「偽りの父」であることを明らかにしています(2 ニーフアイ 9:9)。「おまえには正しいことなどできない」とか、「こんなに罪深いのに赦されるわけではない」「おまえが変わることなど決してない」「おまえのことを気に掛けてくれる者などいない」「おまえには何の才能もない」などという言葉がサタンがささやいても、信じてはいけません。

サタンがよく使うもう一つの偽りはこれです。「経験のため、どんなことでも最低一度はやってみないといけない。一度ならば害はない。」サタンが公にしたくない隠し事は、罪は癖になるということです。

サタンが使うもう一つの効果てきめんな偽りはこれです。「ほかのみんなもやっているから大丈夫。」大丈夫ではありません。そんなときには、ほかの人が皆、星の栄えの王国に

行くとしても自分は行きたくない、と悪魔に言いましょう。

サタンは皆さんに偽りを言いますが、皆さんは真実を告げる御霊に頼ることができます。聖霊の賜物がこれほど大切なものは、そのためです。

悪魔は「大いなる欺く者」と呼ばれてきました。⁵ 主が人に示されるあらゆる真理の原則に対して、悪魔はまがいものを作ろうとします。

忘れないでください。まがいものは反対のものと同じではありません。白の反対は黒ですが、白に対するまがいものは、オフホワイトや灰色です。まがいものは本物によく似ています。疑うことを知らない人々を欺くためです。良いものが歪曲されていて、偽札のようなものであり、価値がありません。例を挙げて説明しましょう。

信仰に対するサタンのまがいものの一つは、迷信です。愛

皆さんは真実を告げる御霊に頼ることができます。
聖霊の賜物がこれほど大切なのは、そのためです。



に対するまがいものは、情欲です。サタンは偽善売教を持ってきて神権と偽り、神の奇跡を魔術という手段で模倣します。

男女の間の結婚は神によって定められたものです。しかし、同性婚はまがいものにすぎません。子孫が生まれませんし、昇栄もできません。多くの人が欺かれますが、サタンのまがいものは本物ではありません。永続する幸福をもたらすことはないのです。

神は教義と聖約の中で、まがいものについて警告しておられます。「人を教化しないものは、神から出てはおらず、暗闇である。」(教義と聖約 50:23)

3. 争い。サタンは争いの父です。救い主はこう教えておられます。「悪魔は互いに怒って争うように人々の心をおおりに立てる。」(3 ニーファイ 11:29)

争いがあると主の御霊が退き去ることを、悪魔は何世紀に

もわたる経験から知っています。アベルを殺すようカインをそそのかして以来、サタンは兄弟同士のけんかをたきつけてきました。また、夫婦間やワードの会員同士、宣教師の同僚間に問題が起こるように仕向けます。善良な人々が口論するのを見ることに、喜びを感じるのです。日曜日に教会に行く直前や月曜日の夜の家庭の夕べの直前、夫婦で神殿のセッションに入ろうと計画しているときに、家庭内で口論が始まるように仕向けます。サタンがいつ攻撃してくるかは、予測可能です。

家庭や職場で争いがある場合には、何をしようとするか、やめて、和解するように努めてください。口論の発端をだれが作ったのかはどうでもいいのです。

争いは多くの場合、あら探しから始まります。ジョセフ・スミスはこう教えています。「他人の過ちを糧にして生活していると、悪魔からおだて上げられて、自分が非常に義になつていっていると思込んでしまうことがあります。」⁶ こう考えると、独善はほんとうの義に対するまがいものでしかありません。

サタンは教会内に争いを広めるのが大好きです。教会指導者の欠点を指摘することが得意です。ジョセフ・スミスは、背教への第一歩は教会の指導者を信頼しなくなることだと警告しています。⁷

ほとんどすべての反モルモン書籍は、ジョセフ・スミスの人格に関するでたらめな記述が基になっています。敵はジョセフの評判を落とそうと躍起になっています。なぜなら、回復のメッセージは、預言者ジョセフ・スミスが語る聖なる森で起こった出来事が真実かどうかにかかっているからです。悪魔は回復の証に疑問を抱かせようと、かつてないほどの勢いで今日会員に働きかけています。

この神権時代の初期、神権者の中には、残念なことに預言者にずっと忠実でいることのできなかった人が多くいました。その一人がライマン・E・ジョンソンで、不義な行いのために破門されました。しかし後に、教会を去ったことを嘆いてこう言っています。「もう一度信じることができれば、自分の右手を切り落としてもいい。あのときには、わたしは喜びと楽しみに満たされていた。心地よい夢が見られた。朝目覚めたときに、わたしの霊は喜び、昼も夜も幸せで、平安と喜びと感謝で満ちていた。しかし、今は極度の暗闇と苦しみ、悲しみ、苦悩である。あれ以来、幸せなときは一瞬たりともない。」⁸

この言葉について考えてみてください。これは、全教会員への警告になっています。

わたしは改宗者です。アメリカ合衆国アリゾナ州で医学部に通う23歳のヤングシングルアダルトのときに、バプテスマを受けました。求道者が真理を探求しているとサタンが働きかけて混乱させ、落胆させようとするのを、わたしは身をもって体験しています。

わたしは若いころずっと、末日聖徒の友達の模範を見てきました。彼らの生き方に感銘を受けていました。教会についてもっと学ぶことにしたのですが、モルモンの教えを学んでいることはだれにも言いたくありませんでした。友達からとやかく言われたくなかったので、人に知られずに探求することにしたのです。

インターネットが普及するはるか以前のことですから、わたしは公立図書館に行きました。そして、モルモン書と、十二使徒定員会のリグランド・リチャーズ長老(1886 - 1983年)の書いた『不思議な驚くべきわざ』(A Marvelous Work and a Wonder)という本を見つけたのです。この2冊をものすごい熱意で読み、鼓舞されました。

ところが、わたしの霊はもっと学びたいと思っているのに、サタンが耳もとでささやき始めたのです。完全な客観性を維持するためには、教会に批判的な立場を取る人の書いたものも読む必要がある、と。わたしはもう一度公立図書館に行き、探し始めました。確かに、預言者ジョセフの言葉は信憑性に欠けるとする本がありました。

この反モルモンの本を読んで、迷いが生じました。探求していたころに自分を導いていた心地よい御霊と影響力が感じられなくなり、いらだちを感じるようになって、真理の探求を投げ出したいくなりました。わたしは反モルモンの本を読みながら、答えを求めて祈っていました。

すると、驚いたことに、高校時代の友達でブリガム・ヤング大学に通っている女性から電話がかかってきたのです。彼女は、ユタ州まで遊びに来ないかとわたしを誘い、絶対に気に入ってもらえる観光だからと言います。彼女の行ってい



る教会についてわたしがひそかに調べていることなど、彼女は知りません。

わたしは行くと答えました。友達はソルトレーク・シティに行ってテンプルスクウェアを訪れようと言います。わたしが非常に乗り気になっていることに、彼女は驚いていました。わたしがジョセフ・スミスや回復に関する真理を知ろうとしていることなど彼女は知らなかったのです。

テンプルスクウェアの姉妹宣教師はとても親切でした。こちらの事情など知らないのに、多くの質問に答えてくれました。彼女たちの証に影響されて、わたしは「[自分の]疑いを疑ってみる」⁹ようになり、信仰が育ち始めました。心の琴線に触れる証の力は測り知れません。

悪魔はすべての人を標的にしていますが、特に、永遠の幸福を得る見込みの非常に高い人々をねらいます。

友達も証を述べて、教会が真実かどうか祈って神に尋ねるといいと勧めてくれました。アリゾナ州までの長い帰り道、わたしは車を走らせながら信仰をもって祈り始めました。初めて、「誠心誠意」祈ったのです（モロナイ 10：4）。そしてある地点まで来たときに、車全体が光に包まれたように感じました。光は闇を追いやるということを自ら学んだのです。

わたしがバプテスマを決意すると、悪魔は最後の悪あがきをしました。わたしの家族に働きかけたのです。家族はあの手この手で思いとどませようとし、バプテスマ会への出席を拒否しました。

それでもわたしがバプテスマを受けると、彼らの心は徐々に和らぎ、家族歴史の探求を手伝ってくれるようになりました。数年後、わたしは弟にバプテスマを施しました。ユタ州まで遊びに来ないかと誘ってくれた友達は、今ではわたしの妻です。

4. 落胆。サタンはほかのあらゆる手段が功を奏さなかった場合に、非常に忠実な聖徒に対してこの手段を巧みに用います。わたしの場合、気持ちがあくじけそうになると、落胆させようとしているのがだれかを認識するだけで楽になります。悪魔を困らせようとするだけで、元気になろうという気力が湧いてきます。

何年も前のことですが、ベンソン大管長が「落胆してはいけぬ」という話をしました。この見識ある話の中で、ベンソン大管長はこう警告しています。「サタンは失望と落胆、意気消沈、憂鬱^{ゆううつ}をもって聖徒を打ち負かそうとますますその力を増しています。」¹⁰ ベンソン大管長は、警戒するよう教会員に呼びかけ、落胆と闘うための12の現実的なアドバイスを与えています。

そのアドバイスの中には、人に奉仕すること、勤勉に働いて怠惰にならないようにすること、運動することや加工していない食品を食べることを含む健康的な生活習慣を実践すること、神権の祝福を求めること、霊を鼓舞する音楽を聴くこと、受けている祝福を数えること、目標を設定することなどがあります。そして何よりも、聖文で教えられているように、常に祈ってサタンに打ち勝てるようにしなければなりません（教義と聖約 10：5 参照）。¹¹

最も弱い聖徒がひざまずくのを見て
サタンはおののく。¹²

悪の力には限界があることを知ることが大切です。その

限界は神会が定められるもので、サタンはこれを超えることができません。例えば、聖文で断言されているように、「サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられ〔て〕」いないのです（教義と聖約 29：47）。

もう一つの重要な限界は、人が口にしないかぎり、サタンは人の思いを知ることができないということです。主は、「あなたの心の思いと志を知っている者は神のほかになだれもない」と述べておられます（教義と聖約 6：16）。

「つぶやいてはならない」（教義と聖約 9：6）、「隣人の悪口を言っ……てはならない」（教義と聖約 42：27）などの戒めを主が与えておられるのは、恐らくこのためです。舌を制することができるようになれば（ヤコブの手紙 1：26 参照）、悪魔に情報を与えすぎることがなくなります。サタンはつぶやきや不平、批判を耳にすると、それを細かくメモします。否定的な言葉を口にすると、敵に弱みを握られてしまうのです。

良いことを教えましょう。神の軍勢は、ルシフェルの軍勢より大きいのです。皆さんは周囲を見回して、こう思うかもしれません。「世の中はますます悪くなっていく。この戦いではサタンが勝利を取めるに違いない。」だまされてはなりません。ほんとうは、敵よりもわたしたちの方が人数が多いのです。忘れないでください。神の子供の3分の2が御父の計画を選んだのです。

兄弟姉妹の皆さん、必ず主の側に立って戦ってください。必ず御霊の剣を携えるようにしてください。

皆さんが生涯を終えるときに、使徒パウロのように「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした」と言えるよう、わたしは祈ります（2テモテ 4：7）。■

注

1. 『聖句ガイド』「ルシフェル」の項、scriptures.lds.org
2. エズラ・タフト・ベンソン「高ぶりを心せよ」『聖徒の道』1989年7月号、5
3. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットナー選（1954年）、72
4. フランシス・M・ギボンズ, *Heber J. Grant: Man of Steel, Prophet of God*（1979年）、35-36 参照
5. 例として、ディーター・F・ウーグトルフ「あなたは御父にとって大切な存在です」『リアホナ』2011年11月号、19；ゴードン・B・ヒンクレー「わたしたちが生きている時代」『リアホナ』2002年1月号、83 参照
6. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』454
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』318 参照
8. ライマン・E・ジョンソンの言葉。ブリガム・ヤング, *Deseret News*, 1877年8月15日付、484で引用
9. ディーター・F・ウーグトルフ「ともに集いましょう」『リアホナ』2013年11月号、23
10. エズラ・タフト・ベンソン「落胆してはいけぬ」『聖徒の道』1975年2月号、90
11. エズラ・タフト・ベンソン「落胆してはいけぬ」90-93 参照
12. ウィリアム・クーパーの言葉。ロバート・アンドリュース編, *The Concise Columbia Dictionary of Quotations*（1987年）、78で引用

スカイドリテはわたしがこれまで会った中でいちばん幸せな人の一人です。彼女の人生は絵に描いたように幸せに見えます。でも子供のころは、彼女や妹の面倒を見られないアルコール依存症の母親と暮らしていました。妹はスカイドリテの腕の中で餓死しました。8歳のときから里親の家を転々とする生活が始まり、蹴られ、殴られ、祈ることを禁じられて過ごしました。まるで奴隷のように扱われました。そんな年月の中で自殺を考えました。何年もたってから、スカイドリテは希望を求めて末日聖徒イエス・キリスト教会の集会所を訪れたのです。

レス・ニルソン、写真家

スカイドリテ・ボクマ

ラトビア、リエパーヤ

「一人の姉妹宣教師がわたしにあいさつし、ほほえみかけてくれたんです。天使だと思いました。その日以来、わたしの人生は変わりました。あれから17年になりますが、自殺願望は完全に消え去りました。今では、前向きです。心配事があれば、神に頼ります。すべてについて神に頼ることを学んだのです。わたしの人生はバラ色です。」

自殺を考えているかもしれない人に気づき、助ける方法を知るには、lds.org/go/41739 をご覧ください。





その歌を流さないでください

少し前の話ですが、わたしたち家族はメキシコのベラクルスに住んでいて、子供たちは小学校に通っていました。毎朝、学校の準備をする3人の子供を手伝いながら、みんなでラジオを聴きました。市内でいちばん人気のあるラジオ局で、若い男性ラジオアナウンサーが司会を務める、とても感じのよい番組でした。

ある日、とても耳に残る歌が流れ始めました。注意して歌詞を聴いてみると、それは低俗とは言わないまでも、挑発的で品に欠けるものでした。

わたしは決然とした口調で、「こういう言葉を聴くことはできないわ」と子供たちに断言しました。子供たちは歌詞などまったく気にもしていなかったのかもしれませんが、ハミングできる程度には聴いていました。

子供たちはわたしがステレオの音を

消すのを見て、何をしているのかと聞いてきました。「あの歌を番組で流さないように、ラジオのアナウンサーに言うわ。」子供たちのあっけにとられた顔に勇気を得たわたしは、さらに行動を起こしました。

子供たちだけではなく自分でも信じられませんでした。わたしは受話器を取って、ラジオ局に電話しました。電話に出てもらえるとは思っていませんでしたが、驚いたことに、さっきまで聞いていた番組のアナウンサー本人がすぐに電話に出てくれたのです。

朝のこの時間帯は多くの家族がラジオを聞いているため、あの歌を流すこ

ラジオでとても耳に残る歌が流れ始めたとき、

注意して歌詞を聴いてみました。

とには賛成できないと彼に告げました。別の歌に換えるとしたら何か案はないかと聞かれましたが、彼の態度はとても礼儀正しかったので、わたしはただ、子供が家にいる時間帯にあの歌を流さないでほしいとだけ言いました。

電話で話したことがラジオで放送されたのかどうかは分かりません。でも、そのラジオアナウンサーが話をきちんと聞いてくれたことにただ感謝しました。その後数日間を見るかぎり、願いは聞き入れてもらえたようでした。

その経験から改めて分かったのは、自分で決断できるようなときには勇気を持つべきであり、子供を悪い影響から守るために必要なことはするべきだということです。そのようにすれば、聖霊を絶えず^{ほんりよ}伴侶とすることができ

マリア・エルナンデス
(アメリカ合衆国、テキサス州)



なくなった財布

最近、わたしは新しい家に引っ越し、家で行う作業の手伝いを数人の教会員に頼みました。作業の途中で、わたしは仕上げに必要な材料を幾つか買いに出かけました。作業が終わった後、財布がないことに気づきました。財布には個人的な書類と、その朝、仕事の顧客から受け取ったばかりのお金も入っていたため、わたしは気が動転しました。買い物をした店までの道をたどりましたが、見つかりませんでした。家に帰ってから、どこかに落としていないかと思っ
て捜しましたが、やはりありません。書類を全部新たに入手しなければならぬのだろうか、とわたしは思い始めました。すると、友人がわたしの家からの帰り際にこう尋ねました。「もう祈ったの?」

わたしはすぐに「もちろん、祈ったよ」と内心思いました。

しかし、実際はまだ誠心誠意祈っていませんでした。むしろ、自分の考えを天の御父に押しつけて、財布を見つける責任を御父に負わせようとしていたのです。そんなとき、イザヤ第55章8節の聖句が思い浮かびました。「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。」

日曜日、わたしが教会に行くと、前の日にわたしと一緒にいた会員が、わたしの財布が見つかるように天の御父に一生懸命祈ったと話してくれまし



妻と子供たちの信仰を強めるために祈りにこたえてくださるよう、天の御父に願い求めました。

た。そして、見つかると感じたと言うのです。後で、わたしは個人学習をしようと椅子に座り、七十人の名誉会員であるジーン・R・クック長老の『祈りの答えを受ける』(Receiving Answers to Our Prayers) という本を読み始めました。最初のページに、わたしと同じ問題に直面した話がかかれていました。クック長老の息子が財布をなくしたため、家族で集まって、見つかるように主に祈ったのです。

その経験を読んだ後、わたしは学んだことを実践しようと、妻と子供たちを集めました。皆で輪になり、一人ずつ祈りをささげ、主の御心みこころにかなうなら財布が見つかるよう助けてください、と主に懇願しました。

わたしは前にも祈りの力を実感していましたが、その後、一人で祈り、妻と子供たちの信仰を強めるために祈りにこたえてくださるよう、天の御父に願い求めました。

翌日、一人の男性から電話がありました。わたしの財布を、お金もきちんと入った状態で見つけたと連絡してくれたのです。祈りが聞き届けられ、家族の信仰が強められたことで、わたしは子供のように泣いてしまいました。

数え切れないほどの子供たちがいても、天の御父が御自身の時と方法でわたしたち一人一人にこたえてくださることを知っています。■

ルイス・マルセリーノ(ブラジル、ゴイアス)

教会のロビーで助けてもらいました

わたしの夫はしばしば日曜日に仕事をしなければならぬので、わたしには一人で4人の息子たちを教会に連れて行く責任があります。ある日曜日、聖餐会せいさんの最中に、二人の幼い息子がいさかいを始めました。わたしが本を差し出して片方の注意を引きつけると、もう一人もそれを欲しがりました。おやつ、おもちゃ、塗り絵などを使いましたが、うまくいきませんでした。1時間静かに座ることができない息子たちに、わたしはすっかりお手上げでした。

バッグから小さなおもちゃを取り出し、1歳の息子に渡したとたん、3歳のタイソンが金切り声を上げ、おもちゃを取り返そうと弟に飛びかかりました。わたしは恥ずかしい思いをしながら、大声で叫んでけんかをしている二人の幼い息子を抱えてロビーに出ました。

次の瞬間、わたしの頬ほおは涙でぬれていました。なぜこんなに大変なのでしょう。わたしは家族を教会に連れて来るといふ、天の御父の望みにかなうことをしていました。そうですよね？でも、もう無理です。毎週、一人で息子たちと奮闘することに疲れ果てているし、恥ずかしいです。二度と聖餐会に戻りたくありませんでした。

わずか15秒ほど、そんなことを思い巡らして座っていると、ほとんど知らない姉妹がわたしを追いかけてロビーに出て来ました。彼女の名前はベウス姉妹でした。夫がビショップリックで奉仕しており、子供たちは

1 時間静かに座ることができない息子たちに、わたしはすっかりお手上げでした。



イラスト：アレン・カーンズ



完了!

大きくなっていったため、彼女はたいいて一人で座っていました。ベウス姉妹はこう言いました。「あなたはいつも一人で来ているのね。ほんとうによく頑張っているのが分かるわ。わたしがタイソンと一緒に座ってもいいかしら?」わたしは返す言葉が思いつきませんでした。わたしがただうなずくと、彼女はタイソンの手を取り、今や落ち着いて、うれしそうな表情の彼を礼拝堂の中へ連れて行きました。

わたしは涙をぬぐい、赤ん坊を抱いて、謙遜な気持ちで礼拝堂に戻り、集会の終わりまで平安な気持ちで過ごしました。

次の日曜日、聖餐会へ行くと、タイソンは新たに友達になったベウス姉妹を探しました。夜になると、「天のお父様、ベウス姉妹に感謝します。ベウス姉妹が大好きです」と祈りました。

あれから3年以上たち、タイソンは今でも礼拝堂でベウス姉妹をよく探しています。昨年、ベウス姉妹はタイソンの初等協会の教師に召され、タイソンは世界一幸せな少年でした。

ベウス姉妹と、人を愛し、奉仕する彼女の心にほんとうに感謝しています。救い主のように奉仕するとき、人の生活を祝福できることを知っています。■

クリスティー・ルイス
(アメリカ合衆国、ユタ州)

ビショップとして面接をしていたある日曜日の午後、わたしはある友人と椅子に座り、彼が直面している幾つかの困難な問題について話す機会がありました。彼の悩みを数分聞いた後、彼に必要なことは、継続して聖典を読み続けることであると感じました。さらに、ビショップであるわたしも、もっと熱心に聖文研究を行うべきであるということに気がきました。わたしも聖文研究があまりできていなかったのです。そこで、もっと継続して聖文を研究することについて、二人が「互いに報告し合う仲間」となったかどうかと提案しました。

毎日、聖典を読み終わったら、互いに「完了!」とメールで報告し合うのです。その日の聖文研究が終わったかどうか、報告を待っている人がいることは、互いにとって、大きな励みとなりました。どちらかが読み忘れていても、メールを受け取ることで思い出します。たとえメールをしなくても、その人はとがめられませんでした。わたしたちは相手に罪悪感を持たせずに、このチャレンジを行うことにしました。

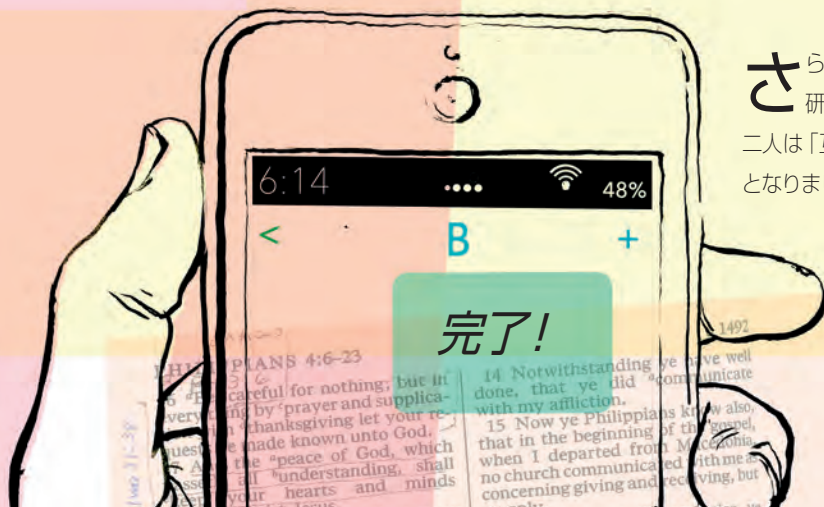
チャレンジを始めたのは半年前ですが、わたしの記憶では、二人が聖典

を読み忘れた日は1日でもありませんでした。数か月前、この兄弟は断食証会で壇上に立ち、毎日の聖文研究が彼と家族に及ぼしている良い影響について証を述べました。

わたしはこの兄弟とその友情に、そして毎日送ってくれるメールに感謝しています。正しく活用すれば、テクノロジーが生活を高めてくれることを目の当たりにしました。聖文があること、そしてそこにキリストについての証が書かれていることにも感謝しています。救い主の贖いの犠牲により、わたしたち一人一人がいつか主のもとに帰ることができることを知っています。

アレックス・ウィブリー
(カナダ、プリティッシュ・コロンビア州)

さらに継続して聖文を研究することについて、二人は「互いに報告し合う仲間」となりました。





自分個人のリアホナ

「祝福文はきれいたんでしまっておくべきものでも、額に入れて飾ったり、公表したりすべきものでもありません。むしろ、読んで、愛着を持ち、従っていくべきものです。祝福師の祝福は、あなたが真^{くらやみ}暗闇の中にいるときに助けとなり、人生の危機にあるとき道しるべとなってくれるでしょう。……祝福師の祝福は、あなたの取るべき進路を図示し、その行く手を導いてくれる個人的な羅針盤なのです。」

トーマス・S・モンソン

「祝福師の祝福は光の羅針盤」

『聖徒の道』1987年1月号, 69 参照

祝福師の祝福 を理解する

アリー・アーネルと
マーガレット・ウィルデン

人生は、航路の分からない海
を行くようなものです。どの
学校に行くべきだろうか。
何を勉強すればよいのだろうか。伝道
に出るべきだろうか。だれと結婚すべ
きなのだろうか。人生における決断を
導く地図を与えられたとしたら、それ
に従いますか。

天の御父とイエス・キリストは、わ
たしたちの人生における指示を与える
ために、祝福師の祝福という地図を下
さいました。わたしたちには、自らの
自由意志により決定する選択の自由と
いう賜物^{たまもの}が与えられてはいますが、祝
福師の祝福は最大の幸福をもたらす
道を明らかにしてくれます。

しかし、単に地図を持っているとい
うだけでは不十分です。その地図を
研究し、理解し、そこに示されている
ことを実践しなければなりません。
同様に、わたしたち各人に与えられた
人生のガイドである祝福師の祝福の
中で使われている言語を理解するよう
になるにつれ、神の目から見たあなた

は何者で、どんな人物になることが
できるのか理解できるようになります。

自分の血統を見いだす

何よりもまず、祝福師の祝福にはあ
なたの血統、つまりヤコブ（のちにイ
スラエルと呼ばれる）の十二部族のう
ちの具体的な部族が宣言されていま
す。わたしたちは皆が文字どおりのヤ
コブの子孫ではありませんが、聖文
は、教会員はイスラエルの家に養子縁
組されていると教えています。「この
福音を受け入れるすべての者はあな
たの名によって呼ばれ、あなたの子孫
と見なされ、立ち上がってあなたを父
としてたたえるであろう。」（アブラハ
ム 2：10）

アメリカ合衆国ユタ州のシェリサ・
シュローペルはこう言っています。
「自分がヤコブの家の一員だと知るこ
とは、この人生の目的や教会で与えら
れる召しなぜ自分に与えられている
のかを理解する助けとなります。」

祝福文には、あなたの特定の部族
に関連した祝福についても書かれて
います。例えば、多くの教会員がエフ



**祝福文の内容を
よく理解することで、
あなたの人生のための
指示を見つけられます。**

ライムの部族に属していますが、この
部族は回復された福音のメッセージを
世界中に伝えるという特有の責任を
担っています（申命記 33：13 - 17；
教義と聖約 133：26 - 34 参照）。

個人的な助言を見つける

地図を適切に使えば、旅行者は迷
うことはありません。同様に、この地
上での旅においても、あなたの祝福文
は人生における助言や指示を与えてく



研究のためのヒント

- 祝福師の祝福にある助言、警告、才能、約束を探す。人生の今の段階でそれらをどのように応用できるか祈る。
- 祝福文全体を、生涯を通じて頻繁に研究する。同じ文章でも、状況によって様々な意味を持つことがある。
- 祝福師の祝福は、人生のすべての側面に触れてはいないことを覚えておく。祝福文で大切な目標が述べられていなくても、そのために努力することは大切である。
- 福音に忠実である。祝福文にある祝福は、自分の義にかかっている。
- 祝福文に述べられている賜物を探し求め、才能を伸ばすよう目標を設定する。
- 人生においてどこへ向かい、最終的にどこに行きたいのかをよく考える。自分の目標と祝福師の祝福は一致しているだろうか。
- 研究に使うため、祝福師の祝福のコピーを作ってもよい。思いついたことを書き、目に留まった言葉に線を引き、祝福に関係のある聖句を書き込む。

れるでしょう。祝福師の祝福は、単にあなたがすることを教えるのではなく、信仰をもってそれらに従えば、自分の人生におけるどの道が天の御父の御心みこころに沿っているか分かるよう個人的な洞察を与えるものです。祝福文を研究し、主の御霊みたまを招くような生活をするよう心がけると、安全さや、喜び、導きを見いだすことができます。

ペルー、リマのガブリエル・パレデスはこう言っています。「祝福の中で与えられている幾つかの助言は、自分の妻と結び固められた後で家族と一緒にしか実践できないものです。

最近、わたしたちはどのように自分たちの新しい家族を強め、築くかについて考えました。その答えは、祝福師の祝福を通して与えられました。祝福文では、家族の中で尊敬、寛容、愛を優先するように助言されています。これらは、イエス・キリストの福音の大切な土台となっているからです。

これに焦点を当てることにより、妻とわたしは問題を克服することができました。家族として時折試練もありますが、わたしたちは幸せです。主がわたしに約束された家族をどのようにすれば持てるのか、思い起こさせてくださっているように感じました。主は祝福師の祝福を通して語りかけられ、その助言は生活の中で生かすべきことだと知っています。」

勧告を心に留める

地図には途中にあるすべての危険な箇所に印が付いているわけではありませんが、幸いなことに、祝福師の祝福には人生の中でわたしたちを守るために警告が与えられています。こ

れらの勧告には、サタンの影響からわたしたちを守ってくれるものもあります。どうすればわたしたちの中にある生まれながらの人を克服することができるかを気づかせてくれるものもあるかもしれません。

ユタ州のケイトリン・カーにとって、祝福師の祝福の中の勧告はすぐに理解できませんでした。後に祝福文を研究することで理解することができました。

「祝福師の祝福を受けたとき、耳当たりの良いことを言ってわたしを真理からそらせようとする人々について警告されました。わたしは教えられている教義を固く信じていたので、それについて特に感じることはありませんでした。

でも次の年、一見、公平性や愛に根ざしているように見えて、実はそうではない考えや価値観に直面しました。これらのメッセージは、メディアをはじめ、学校や親しい友達まで、あらゆるところから送られて来るようでした。これらの価値観が神の計画に反していると分かっているながらも、自分がこれらの新しい世の中の考えと教会の両方を支持したいと思うようになりました。すぐにわたしは、「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない」(マタイ6:24) こと、また人の知恵に頼るべきではないということに気づきました。天の御父は、聖文を通してわたしの疑問を解消し、心と思いに平安を告げてくださいました。その結果、わたしの証あかしは強まり、真実だと知っていることをさらに固く擁護するようになりました。」

たまもの 賜物と才能を伸ばす

祝福師の祝福には、主が王国建設のために与えてくださっている霊的な賜物や才能についても述べられています。自分になじみのない才能について祝福文で述べられているのであれば、その才能を見だし伸ばす機会がまだ訪れていなかったのかもしれませんが。熱心に探し求め、主の助けを受ければ、その才能やほかの多くの才能を身につけることができますようになります。

才能を伸ばすと、自分が主の業に貢献できるかけがえのない役割を認識できるようになります。アメリカ合衆国カリフォルニア州のヨハンナ・ブラックウェルは、ほかの人と自分を比べそうになるとき、祝福文の中の賜物と才能について深く考えます。「祝福師の祝福にある言葉を読むと、わたしが必要としていた、試練を克服し、主の業を速められるよう助けるための賜物に恵まれてきたことに気づかされます。

わたしの祝福文には、周りの人々を

愛し、^{ゆる}赦し、交わるための勇氣を持つ能力について書かれています。これらの賜物を使ったとき主は、新しい人々や文化に出会い、関係を築きたいというさらに強い望みを持てるようにわたしを祝福してくださいました。その結果、わたしたちは皆、愛する天の御父の子供であるという証が強まり、さらにキリストのようになろうと努めながら、人々に仕えることができました。

約束されている祝福を求める

最後に、祝福師の祝福には、わたしたちが忠実であり続ければ与えられる天の御父が約束してくださった祝福が明らかにされています。これらの約束がいつ成就するかは分かりませんが、福音に従順に生活しているかぎり、この世または次の世でそれらは成就することを知ることができます。

自分になじみのない才能について祝福文で述べられているのであれば、その才能を見だし伸ばす機会がまだ訪れていなかったのかもしれませ

ん。アメリカ合衆国ネバダ州のセルジオ・グティエレスは、将来のキャリアについて不安になるときはいつでも、祝福師の祝福に書かれている約束に頼っています。「将来がはっきりせず心配になるときはありますが、祝福文には、いつもわたしの心を落ち着かせてくれる約束があります。この約束は、わたしが精いっぱい働き、忠実であるかぎり、家族を支え、教会で奉仕するのに必要なリソースが与えられるということを理解する助けとなっています。どんな仕事をしていくのかまだはっきり分かりませんが、この約束があるので信仰と自信を持つことができます。

自分に対する天の御父の御心は何だろうかと考えたことがあるのは、あなただけではありません。主は、あなたが人生において多くの分岐点に直面することを理解しておられます。ですから、主はあなたの人生と主の福音が調和するように個人的な地図を与えてくださいました。祝福師の祝福は、わたしたちのために決定を下してくれるわけではありませんが、個人の啓示へと導いてくれます。祝福師の祝福を通して、自分の部族を知ることによってイスラエルを集合させるための主の計画にどのように自分が携わるのかを示されます。個人的な助言、勧告、約束が与えられ、御父に仕えるために与えられた独自の賜物や才能が分かるのです。祝福文にあるこれらのすべての要素に従って生活しようと努力するかぎり、自分の決断が主の御心と一致していると知ることができるでしょう。■

著者はそれぞれ、アメリカ合衆国イリノイ州とニューヨーク州に在住しています。



主は、福音と一致した人生を歩めるように、あなたに個人的な地図を与えてくださいました。

新しい 旅に備える

カリーナ・マーティンズ・ペレイラ・
コレイア・デ・リマ

神 殿結婚を数週間後に控え、新しい家族を始める前にしておかなければならないたくさんのことについて少し不安になり始めました。喜びの思いとは裏腹に、新しい日常生活を始めるに当たり、家計の管理や、荷物を保管する倉庫探し、妻としての新しい責任などについて考えるとストレスを感じました。正しい方法で結婚生活を始めるために、忙しい生活の中でも戒めを守り、夫と妻としてともに時間を過ごすといった大切な事柄を行う機会を持ちたいと思っていました。

結婚式の日が近づくと、驚いたことに、家族に影響を及ぼす、悪夢のような問題が次々に起こりました。わたしの家族は愛し合ってはいましたが問題もあり、絶えず激しい言い争いと失意に脅かされ、わたしは悪夢にひどく悩まされていました。そのようなこと

が続いたある晩、わたしは汗をかいて目を覚まし、中央若い女性会長会第二顧問のニール・F・マリOTT姉妹が「主に心を委ねる」(『リアホナ』2015年11月号、30-32)という説教の中で与えた助言に従うことにしました。目を閉じて、「愛する天のお父様、わたしの家族からこのような悪いことを取り去るにはどうすればよいでしょうか」と祈りました。

するとまるでだれかがわたしの頭の扉を開けて、そこに考えを入れたかのように、すぐに、はっきりと答えが与えられました。静かな細い声がささやきました。「ただ、すべきことをしなさい。一つ一つ、信仰をもって行いなさい。」御霊が具体的な勧告を与えてくださったので、わたしはそれらのことを行えばすべてはうまくいくと感じました。

わたしは笑顔になり、心に温かいものを感じていました。それが真実だと分かったので、すぐにほかの心配事

**未知への航海をした
ニーファイのように、
わたしも新しい家族を
作ることについて、
主に対する信仰を
示す必要がありました。**

はどうでもよくなりました。以前にも聖霊を感じていましたが、この夜ほど強く感じたことはありませんでした。天の御父と救い主の愛に包まれているのを感じ、家族の慰めと救いがわたしにとって大切なように、天の御父と主にとっても大切であることが分かりました。

さらに与えられた確信として、聖文



からの物語が思い出されました。主がニーファイに船を作るように命じられたときのことです。「そこで主は、わたしに言われた。『**わたしがこれから示す方法に従って**、一隻の船を造りなさい。この大海を越えて、わたしがあなたの民を連れて行けるようになるためである。』」(1ニーファイ 17:8, 強調付加)

ニーファイとその家族は、あらゆる困難に耐えながら、何年も荒れ野にとどまりました。海を渡る旅が始めるのが怖いと感じ、恐れが信仰よりも強くなったかもしれません。しかし彼はそうさせませんでした。神の指示を受け入れ、それに従ったのです。神の約束は果たされるという信仰を持っていました。主はニーファイに、嵐は起きないとか、船が波にもまれることはないとは言われませんでした。そうではなく、主の指示に従えば、大海を渡り、約束の地に家族を安全に導いて行けると言われたのです。

自分もまた何年も荒れ野を旅して、今、結婚という新しい旅に備え、大海

を目の前にしていると気づきました。すべての末日聖徒の家族がそうであると思いますが、わたしは神の指示に従って船を造るようにならされているのです。

夫とわたしが結婚すると、すぐに困難がやって来ました。わたしは病気になり、経済的な問題が起こって、従おうと決心していた良い習慣を行うことが難しくなりました。

しかし、あの夜受けた勧告が心に残っていました。毎日、神の言葉を学び心に蓄え、キリストをはじめとする愛する指導者の良い模範に従い、行いを改善できるように努めました。祈りに対する信仰が強められ、わたしたちに対する御父の愛をよく感じました。さらに信頼できるようになり、恐れが和らぎました。直面していた困難は、改善するための段階となったことに気がつきました。今、わたしたちの家庭は小さな天国のようです。

旅はまだ始まったばかりですが、結婚して家族を持ったことは、今までで最高の選択でし

た。神殿で受けた儀式について考えると、心が喜びで満たされ、神の権威により結び固められたことが分かります。天の御父の計画の中の家族の重要性と、交わした聖約の神聖さを理解すればするほど、同じ聖約をほかの家族も受けられるように助けたいと感じます。

わたしは、これから起こることについて心配する必要はないことを学びました。なぜなら、「神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊」だからです(2テモテ 1:7)。ただ従順で、聖文や現代の預言者を通して与えられる指示に従い、祈りを通してさらに個人的な指示を求めるだけでよいのです。これらのことを行えば、どんな問題が起こっても、愛する人たちは安全であるという自信をもって、この末日の大海を渡ることが出来ます。■

筆者はブラジル、パラナ在住です。



思いと心で研究するにはどうすれば

疑問があるとき、何ができるかを学びましょう。

教 義や歴史についての疑問や、個人的に知りたいことがあるとき、どうすればよいのでしょうか。どのように答えを見つけることができるでしょうか。主は「聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう」と約束しておられます（教義と聖約 8：2）。靈感に気づくために、思いそして心をどのように使いますか？ 幾つかのアイデアを紹介しましょう。

祈る

耳を傾ける

話す

思い

研究し、祈り、耳を傾ける

十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は次のように言っています。「人生における重要な決断をする……際、天の御父はわたしたちが選択の自由を使い、福音の原則に照らして心の中でその事をよく思い計り、祈りを通して決定したことを御父と相談するよう期待しておられます。」（「聖霊」「リアホナ」2016年5月号、105）

これは、どの疑問にも当てはまります。研究するとき、見つけた答えについて心から祈ってください。聖霊は、あなたに必要なさらなる答えに導くために、あなたの思いに考えや言葉を与え、個人的に思い出させ、促しを与えてくださいます。

リソースを使う

聖句ガイドや学習ヘルプ（Study Helps [lds.org/scriptures/study-helps?lang=eng]）も含めて、聖典を調べます。ほかのLDSリソースを検索することもできます。総大会の説教、LDS.orgの福音のテーマ、教会機関誌、ジョセフ・スミス文書プロジェクトなどです（54ページの、役に立つ教会のリソースのリストを参照してください）。

それについて話す

助けを求めることを恐れないでください。十二使徒定員会のロナルド・A・ラズバンド長老はこのように励ましています。「わたしは皆さんにチャレンジしたいと思います。……信頼できる友人や親、祖父母、教師、ビショップリック、アドバイザーなど、（皆さんが答えを見いだせるように助けることのできる人を）考えてください。そして、自分の疑問に答えを得る必要があります。」（Face to Face 衛星放送、2016年1月20日）挑戦してみてください。あなたが疑問に思っていることについて、信頼する人と話し、ともに答えを見つけてください。

イラスト：ジョシュ・タルボット

よいのでしょうか

研究する

研究する

祈る

耳を傾ける

忍耐

心

研究し、祈り、耳を傾ける

この3つは、思いと心の両方で思い巡らすために、大切なステップです。大管長会第二顧問のディーター・F・ウークトドルフ管長はこう言っています。「もし霊的な真理を知りたいと望むなら、正しい機器を使わなければならないということです。霊的な真理を感じできない機器では、そのような真理を理解することはできないからです。」（「光と真理の証を受ける」『リアホナ』2014年11月号, 22）聖霊を通して、わたしたちは霊的な事柄を学ぶことができます。ですから、皆さんが祈り、御霊に耳を傾けるなら、やがて答えを見いだすことができるでしょう。

忍耐してください

ウークトドルフ管長はさらに次のように説明しています。「心と思いを神に向ければ向けるほど、天の光が与えられます。……ぼやけて、暗く、遠くに見えていたものが、徐々にはっきりとした、輝きのある、慣れ親しんだものになっていきます。」（「光と真理の証を受ける」『リアホナ』2014年11月号, 22）答えを探すには、長い過程を経なければならない場合があります。でも、たとえ時間がかかっても、答えを得ようと進んで耳を傾けるなら、見つかるでしょう。

促しを聞き分ける練習をする

促しを聞き分け、御霊があなたの心にささやくときに進んで行動すればするほど、将来さらに促しに気づきやすくなります。それが正しければ「正しいと感じ」、正しくなければ「思いが鈍くなり」ます（教義と聖約9：8－9参照）。穏やかな促し、平安な気持ち、またあなたに特別に与えられる気持ちを感じることもあるでしょう。主はあなたを御存じであり、あなたが御霊をどのように理解するかも御存じです。あなただけのために用意された、愛にあふれた導きを与えてくださいます。ですから耳を傾け続け、練習を続けてください。■



神からの答え

「正直な問いかけをすることは、信仰を培ううえで重要なことであり、知性と感情の両方を使います。主は言われました。『わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。』（教義と聖約8：2）すべての答えがすぐに与えられるわけではありませんが、ほとんどの疑問は心からの研究と神に答えを願い求めることによって解決します。」

十二使徒定員会 ニール・L・アンダーセン長老
「信仰は偶然ではなく、選びによって与えられる」
『リアホナ』2015年11月号, 66

自分にぴったりの 福音の研究法

ここで紹介する、
福音研究と霊的な疑問への
答えの見つけ方のヒントを
見てみてください。

教会機関誌

ベサニー・パーソロミュー

霊

的な疑問に対して答えを探しているときや、単にもっとよく聖文を理解するために、どのように聖文を研究しますか？あなたにぴったりの方法で、ということです。一人一人、学校の勉強の方法は違います。でも、福音研究もまた、一人一人違ったものにできるということをわたしたちは忘れがちです。今度、霊的な疑問や教義的な疑問を感じたときは、以下のヒントから幾つか試してみて、自分にとってどの方法が一番役立つかを確かめてみてください。



1. 作り出す

リストや表や地図を作ります（以下の例を参照してください）。

勉強マップを作ります。言葉や考えを書き出し、線や丸でつないで、それぞれどう関係しているかを示します。

リストや表や地図を作る

福音を研究するとき、リストや表や地図などにして自分の考えを図にまとめると便利です。以下は、新約聖書のパウロの書簡を研究するときに行うことができる表の例です。自分にとって一番役立つ方法を使って、リストや表や地図を作ることができます。クリエイティブになりましょう。福音研究をまとめるための楽しい方法を見つけてください。

パウロによる書簡

書簡	一緒にいた人	書いた場所	書簡の主要なテーマ
例：1 テモテ	不明	ラオデキヤ（1 テモテ 6 章の最後の記述〔英文〕を参照）	真の教義、救い主、祈り、信仰と慈愛、指導者の特質、背教、貧しい人の世話、忠実であること、この世の富を避けること

2. 書く

聖文研究をしている間に受けた考えや印象を聖文学習帳に記録し、何度も読み返します。

祈った後に受けた考えや印象を記録します。自分が研究しているテーマに直接関係なくてもかまいません。聖霊が時間をかけてあなたに教えようとされていることに気づいてください。

ノートや携帯電話、ベッドのわきに置いてあるメモ帳に疑問を書き出し、毎日学んでいることについて思い起こし、考え続けられるようにしましょう。



4. 調べる

聖典やオンライン上の研究補助資料を調べます（以下はそれに役立つ LDS リソースのリストです）。

研究している事柄に関するビデオや歌を LDS.org で調べます。

文脈を研究します。あなたが研究しているテーマや聖句に関連した歴史やほかの章を研究します。

研究補助資料を活用する

皆さんが大切なテーマを研究するに当たって、聖文の中やオンラインで提供されているたくさんの価値あるリソースを活用することができます。以下は皆さんが活用できるリソースと、それがどこにあるかをまとめたリストです。



聖典の中

- 聖句ガイド
- 聖書年表（旧約聖書と新約聖書の中の出来事とおおよその年を時系列に並べたもの）〔英文〕
- 福音書対観表（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書に書かれた救い主の物語を、出来事、場所、おおよその日付によって整理したもの）
- 聖書のジョセフ・スミス訳
- 地図と写真
- 略語ガイド〔英文〕



LDS.org 内のリソース

- 聖句 (lds.org/scriptures?lang=jpn)
- 総大会 (lds.org/general-conference?lang=jpn)
- 福音のテーマ (lds.org/topics?lang=jpn)
- 機関誌 (lds.org/liahona?lang=jpn)
- 教会歴史 (history.lds.org/?lang=jpn)
- 学習ヘルプ (lds.org/scriptures/study-helps?lang=jpn)
- レッスンと指導 (lds.org/topics/serve-and-teach/lessons-and-teaching?lang=jpn)
- LDS メディアライブラリー (lds.org/media-library/how-to-use-interactive-transcripts?lang=jpn)
- 希望と助け (lds.org/topics/families-and-individuals/lifes-challenges/hope-and-help?lang=jpn)



そのほかのオンラインリソース

- 家族歴史 (familysearch.org)
- モルモンチャンネル (youtube.com/user/MormonMessagesJPN)
- 総大会で引用された聖句 (scriptures.byu.edu〔英文〕)
- モルモンニュースルーム (mormonnews.jp/)
- 伝道と福音を分かち合う業 (mormon.org/jpn?locale=jpn)
- ジョセフ・スミス文書プロジェクト (josephsmithpapers.org〔英文〕)

3. 意見を聞き、話し合う

親または信頼している指導者と話してください。一緒に話し合ってみてください。少し時間はかかるでしょうが、それを進めていく中で、お互い成長するでしょう。

ほかの人を教えます。あなたが確かに知っていることを順番に分かち合います。お互いから学んだことを話し合います。

聖文やほかの末日聖徒の話やリソースの音声を聞きます。

5. 行動する

聖典やそのほかのリソースに書かれている物語を演じてみます。その人物の立場になって考えてみることは、あなたが学んでいることをもっとよく理解する上でどのように役立ちますか。あなたの人生で起こっている同じような出来事として、どんなことがありますか。

聖典から見つけた答えを紙に書いて、聖句の鎖を作りましょう（以下の例を参照してください）。

聖典研究の鎖を作る

同じテーマについての幾つかの聖句を書いたメモを作ることが、役に立つこともあります。聖句ガイドを参照して、研究しているテーマに関連した聖句を見つけます。それから、脚注と文脈を使って、同じ主題についてもっと情報を知ることができる聖句とつなぎ合わせます。鎖の中で次に来る聖句を、前の聖句の余白に書き、同じことを続けます。その主題について話された大会説教を探してもよいでしょう（lds.org/general-conference?lang=jpnでテーマリストを参照できます）。例として、希望というテーマに関する聖典研究の鎖を紹介します。

聖文研究の鎖

希望に関する聖句



希望に関する説教

- ・ ディーン・M・デイビーズビショップ「礼拝がもたらす祝福」『リアホナ』2016年11月号, 93 – 95
- ・ ポール・V・ジョンソン長老「もはや、死もなく」『リアホナ』2016年5月号, 121 – 123
- ・ ディーター・F・ワークトドルフ管長「主はあなたを肩に乗せて家に連れ帰ってくださるでしょう」『リアホナ』2016年5月号, 101 – 104
- ・ L・ホイットニー・クレイトン長老「信じることを選ぶ」『リアホナ』2015年5月号, 36 – 39
- ・ ボイド・K・パッカー会長（1924 – 2015年）「わたしたちに希望がある理由」『リアホナ』2014年11月号, 6 – 8
- ・ ヘンリー・B・アイリング管長「希望をもたらす貴い受け継ぎ」『リアホナ』2014年5月号, 22 – 25 ■





十二使徒定員会
クエンティン・L・
クック長老

真の平安を見いだす 方法

世界中の善良な人々の義にかなった願いは、世に平和がもたらされることです。この願いがかなえられるという望みを、わたしたちは決して捨ててはなりません。しかし、ジョセフ・F・スミス大管長はこう教えました。「人類が神の真理と神の言葉を受け入れ、……神の力と権能を認めるまで、世に平和と愛の精神はもたらされないのです。」

わたしたちは全世界の平和を心から望み、祈り求めています。しかし、**義にかなった人々に約束されている**そのような平和を実現する役割は、わたしたち一人一人に、そして個々の家族にあります。この平和は、救い主の使命と贖いの犠牲によって約束された賜物なのです。

平和とは、単に戦争や暴力、対立、争いがなく安全であることではありません。**わたしたちが何者であるかを救い主は御存じであって、**深刻な試練や悲劇のさなかにあつてさえ、わたしたちが**主を信じる信仰を持ち、主を愛し、その戒めを守っているのを**承知しておられることを知ることで、平安がもたらされるのです（教義と聖約121:7-8参

照）。「平和はいずこにありや。ほかに癒しなきとき、慰めはいずこにありや。」（Where Can I Turn for Peace? Hymns, 129 番）**その答えは救い主です。**救い主こそ平和の神であり、「平和の君」であられるのです（イザヤ9:6）。

神の御前に**自らへりくだり、常に祈り、罪を悔い改め、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってバプテスマの水に入り、イエス・キリストの真の弟子になる**ことは、義にかなった人々の示す優れた模範であり、その報いとして永続的な平安が与えられます。

教会は、キリストに従う者たちが平安を得る避け所です。この世の若者の中には、自分は霊的ではあるが、宗教的ではないと言う人もいます。霊的な事柄を感じ取ることは、望ましい第一歩です。しかし、わたしたちが**仲間から手を差し伸べられ、教えを受け、神の善い言葉で養われる**場所は教会の中なのです。さらに大切なのは、家族を結び合わせる**神聖な儀式や聖約**を施し、わたしたち一人一人に日の栄えの王国におられ



る父なる神とイエス・キリストのみもとに戻る資格を得させてくれるのは、教会にある神権の権能であるということです。彼らが主と聖約を交わすことによって、これらの儀式が平安をもたらしてくれるのです。

神殿は、そうした神聖な儀式の多くが執り行われる場所であり、この世からの平安に満ちた避け所でもあります。**神殿の敷地を訪れたり、神殿のオープンハウスに参加したりする**人々も、この平安を感じます。

救い主は平和の真の源です。人生の様々な試練にもかかわらず、救い主の贖罪とその恵みのおかげで、義にかなった生活をする^{しよくざい}ことで個人の平安が報いとして与えられます（ヨハネ14:26-27; 16:33 参照）。■

2013年4月の総大会でのお話から

教会の本は 持っていませんでしたが、 あかし 証は持っていました

みんながわたしを見ていました。

ささやかな証だけで、教会を擁護することができるでしょうか。

アビゲイル・D・フェレール

ある年、わたしは自分の霊的な学びを深めるという目標を立てました。御言葉に飢えを感じていたので、教会の本やパンフレット、手引き、また聖典を、どこへ行くにも、学校にさえ持って行きました。しかし、テスト勉強のために忙しくなると、その意気込みは薄れていきました。

ある日、教師が話し合いの途中で、クラスの中でカトリックでない生徒に立つように言いました。わたしはクラスで唯一の末日聖徒でした。ほかに6人の生徒が立ち上がりました。

それから次の質問をされました。「どの教会に行っていますか。」「その教会の創設者はだれですか。」「どのように教会が設立されましたか。」

わたしは最後に答えました。自分が教会の本を持って来なかったことに気づいて心配になりましたが、これまで学んできたことを思い出そうとしました。聖書のある一節が頭に浮かびました。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5-6)

わたしは恐れを捨てて、クラスの前に堂々と立ちました。自分が末日聖徒

イエス・キリスト教会の会員であることを述べて、少年ジョセフ・スミスが神にまみえた話を分かち合いました。心が燃えるように感じ、目から涙があふれました。わたしは教会が1830年4月6日に設立されたことを伝え、神の預言者が召され、神権が回復されたことを証しました。それらがすべて真実だと知っていることを証しました。

これまで福音の学習に費やしてきた多くの時間は無駄ではありませんでした。自分の信仰を守り抜き、福音を分かち合う助けとなったのです。数週間後に、4人のクラスメートと一緒に教会に来てくれたときは、誇らしく感じました。

わたしはその経験を通して、証の大切さを学びました。はじめは、その日に、なぜ主は教会の本を持って行くように促してくださらなかったのだろうと不思議に思いました。そうすれば、聞かれた質問に完璧に答えることができたでしょう。でも、教会についてすべてを暗記したり、資料に頼ったりする必要はなく、聖霊に頼りながら福音を学び、福音に従って生活し、福音を分かち合えばよいのだと気がつきました。教会の本は持っていませんでしたが、自分の証は持っていました。■
筆者はフィリピン、カガヤンに住んでいます。



彼らは
主
を見たのです

これらの人々は復活された救い主を実際に見ましたが、
皆さんも自分自身の方法で
キリストの証人となることができます。

復活された救い主を実際に見るといふ経験はどのようなものだと思いますか。イエスの時代の数百人もの人々にとっては、それを想像する必要がありませんでした。実際に体験できたのですから。聖典には、復活された主が人々に姿を現された記録が、新約聖書に少なくとも十数か所、モルモン書にも数か所記されています。これらの人々は、イエス・キリストが死を克服し、わたしたち一人一人が再び生きることができるようにしてくださったという、歴史上最も偉大な奇跡を目の当たりにしたのです。ほんとうに驚くような出来事でした。

では、キリストの証人となるとは、実際にどういう意味でしょうか。聖典の中からそのときの記録を幾つか読んで、わたしたちが実際に主を見なくても、どのようにキリストの証人となることができるのか考えてみましょう。

マグダラのマリヤ

マグダラのマリヤは最初の証人でした。十字架上で亡くなられた後の日曜日の朝、彼女は主の体に油を塗ろうと数人の女性たちと墓を訪れます。墓が空になっているのを発見して、マリヤは泣いていました。不意に背後からだれかが近づいてきて、「女よ、なぜ泣いているのか」と尋ねました。それが死から復活されたイエス自身であったことに気づいたときのマリヤの驚きは、どれほどだったでしょうか。（ヨハネ 20：1－18 参照）

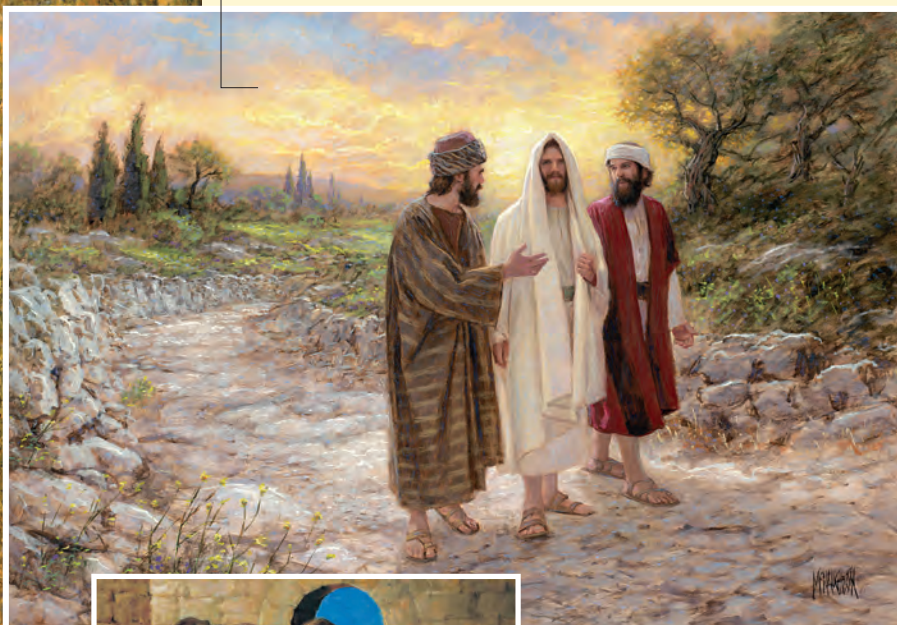


ペナントのイラスト © ISTOCK/GETTY IMAGES



エマオに向かう二人の弟子

クレオパともう一人の弟子は、エマオに向かう途中で見知らぬ人と出会いました。彼らは、この新しい連れ人がだれか分かりませんでしたが、夕食をともにしているときに、見知らぬ人はパンを裂きました。そこで、弟子たちの目は開かれ、彼らが救い主とともに旅をしてきたことに気がついたのです。二人は「お互いの心の内に燃えたではないか」と尋ね合い、彼らがほんとうに主とともにいたということを確認して、それについて深く考えました。(ルカ 24 : 13 - 34 参照)



10人の弟子たち

キリストとともにエマオに向かっていた二人の弟子たちは、エルサレムに戻り、自分たちの経験について10人の弟子たちに話しました。彼らが話していると、救い主御自身が彼らに現れ、こう言われました。「わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしののだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。」(ルカ 24 : 36 - 41, 44 - 49 参照)

「主はよみがえりぬ」 グレグ・オルセン画。複製は禁じられています
 「エマオへの道」 ジョン・マクノートン画
 「わたしの手や足を見なさい」 ハリー・アンダーソン画

使徒トマス

使徒トマスは他の弟子たちに救い主が姿を現されたときに、その場にいなかったため、彼はキリストが復活されたことを信じませんでした。一週間後に、キリストは再び弟子たちに現れました。このときは、トマスもその場にいました。彼は直接キリストを見たので、主が復活されたことを信じたのです。救い主は、見てからでなければ信じないと言ったトマスをつなぐため、こう言われました。「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信する者は、さいわいである。」(ヨハネ 20:24-29 参照)



トマスの絵、フランク・コール画



テベリヤの海べにいた 11 人の弟子たち

主の復活後間もないある日、数人の弟子たちはテベリヤ湖に漁に出かけましたが、何も捕れませんでした。翌朝、救い主が現れ、彼らに網を舟の右側に下ろしてみるように勧めました。彼らが言われたとおりにすると、引き上げられないほどの魚が網にかかりました。食事をともにした後、救い主はほかの人々に仕えることの大切さをお教えになり、「わたしの小羊を養いなさい」と言われました。弟子たちは、残りの生涯をそのためにささげました。キリストについて人々に教え、大義のために、時には自らの命さえも犠牲にしたのです。(ヨハネ 21:1-22 参照)

「テベリヤの海べに現れた復活されたキリスト」トビッド・リンズリー画





「人の羊飼」ハワード・リム画

アメリカ大陸のニーファイ人たち

救い主が十字架で亡くなられるとき、アメリカ大陸では、地震や火事、そのほかの自然災害によって壊滅的な状況となり、3日間の暗闇が救い主の死のしるしとなりました。後に、キリストは天から降られて、パウンティフルの地にある神殿の周りに集まった2500人の群衆を訪れました。主は、人々に御自身の手と足とわきの傷に触れるように招かれ、説教をされ、ニーファイ人の子供たち一人一人を祝福されました。その翌日にはもっと大勢の人々が集まり、救い主は彼らを訪れ、お教えになりました。最終的に、弟子たちはキリストの教会を設立し、ニーファイ人たちはこのような力強い経験^{あかし}を証として受け入れ、またレーマン人たちも主の道に改宗するようになったのです。(3ニーファイ11-18章参照。3ニーファイ8-10章；4ニーファイ1章も参照)

昔と今の証人たち

キリストは、マグダラのマリヤとともにキリストの体に油を塗りに墓を訪れた数人の女性たちや、500人以上の男性たち、ヤコブやパウロなどを含め、ほかにも多くの人々に姿を現されました。(マタイ28:9；使徒9:4-19；1コリント15:6-7参照。3ニーファイ19章；26:13も参照)

わたしたちには、彼らのように救い主を直接見る機会はないかもしれませんが、それでもキリストの証人となることができます。マリヤが墓を訪れたときのように、主についてもっと学ぶことにより、個人的に救い主を探し求めることができます。または、戒めや預言者からの勧告を守ることによって、主への信仰を働かせることができます。そして、エマオへ向かう二人の弟子たちがしたように、自分の生活において、救い主から与えられている祝福に気がつくこともできるでしょう。この復活祭の季節に、キリストの証人となる自分が何の意味しているのか考えてみましょう。これらの人々は、復活されたキリストを直接見た、文字どおりの証人となりましたが、人生において主の証人となる方法はそれだけではありません。■



主に学ぶ



「聖なる御霊^{みたま}がイエス・キリストを証されることを感じ、また多くの経験や様々な状況を通して自分の霊がその証を確認し、再確認するとき、また日々、自分自身の生活の中で主の模範という光を掲げようと努力するとき、そして人々に証を述べ、その人々がキリストを知り、従うための手助けをするとき、皆さんはイエス・キリストの証人なのです。」

十二使徒定員会 D・トッド・クリストファーソン長老
「キリストの証人になる」『リアホナ』2008年3月号, 58

わたしたちのスペース

神は道具を授けてくださいます

おじは芸術家で、ガラス瓶の中に木製の小さな船を組み立てます。作るのにはたくさんの時間、集中力、そして努力が必要です。

ある日、おじが使う道具を全部見せてもらったとき、一つ一つが船のある特定の装飾や部品に使われていることが分かりました。おじが作業する様子を見ながら、船を組み立てるためにどのように道具を使うかに驚きました。そして、船を造ったニーファイの物語を思い出しました（1 ニーファイ 17 - 18 章参照）。ニーファイは人の方法ではなく、主の方法で船を造りました。主はわたしたちに、主の方法で自分の船を造る道具を授けてくださいます。自分の船をひび割れないように丁寧に造るためには、聖文、信仰、そして神の愛という道具を人生で使わなければなりません。わたしは主の弟子になれるように、日々学んでいます。■

マリア・メルセデス・G（ベネズエラ、モナガス）



孤独感

デンマークはその年寒い春を迎えました。わたしは専任宣教師として伝道を始めたばかりで、証は揺らいでいました。改宗してまだ19か月しかたっておらず、外国という場所、話せない言葉、そしてどう進めばよいのかまったく分からない迷路のような道を前にして、不安でいっぱいでした。かつては感謝で埋め尽くされていた祈りは、いつしか苦い非難の言葉に変わっていました。「神よ、なぜわたしを独りぼっちにされてしまったのですか」と。

ある朝、祈りの中で神に懇願しました。でも心に怒りを抱いて「なぜ」と問いかけるのではなく、福音が真実で

あるという証を請い、疑いを消してくださるようにと願いました。

祈った後、聖典を何げなく開くと、申命記第31章6節が目にとまりました。「あなたがたは強く、かつ勇ましくなければならない。彼らを恐れ、おののいてはならない。あなたの神、主があなたと共に行かれるからである。主は決してあなたを見放さず、またあなたを見捨てられないであろう。」

祈りに対する答えに気づき、心が喜びに満たされました。神はいつでもそこにいてくださったのです。神はただ、見放されたことへの非難ではなく、心からの祈りを待っておられたのです。

すべてが絶望的に見える状況でも、神は決して見放すことはなさいません。ですから祈りや聖文を通じて、日だまりのような神のぬくもりを感じることができるのです。■

クレイトン・E（アメリカ合衆国、テキサス州）

あなたの番です

『リアホナ』では、福音に添って生活する中で経験したことや分かったことについて投稿をお待ちしています。あなたの話を liahona.lds.org に投稿するか、liahona@ldschurch.org にメールしてください。氏名、ワード、およびステークを明記し、保護者の許可も一緒に送ってください。

戦い進め

キリストの兵士たちよ

「日の栄えの王国で座する場所を確保したいと願う男女は、
毎日を戦い抜かなければならないことに気づくでしょう。」

『歴代大管長の教え——プリガム・ヤング』321



「どうしたら神がわたしの祈りを聞いてくださっていると分かりますか。」

祈りはすばらしい祝福であり、天の御父はいつも祈りを聞いてくださっていると約束されていますが、御父からの答えを認識するためにすべきことが幾つかあります。¹

このように考えてください。神が祈りを聞いてくださっているか、そうでないかのどちらかです。もし聞いておられないのであれば、祈ることは無意味です。しかし、もし聞いておられるのであれば（実際に聞いておられます!）、わたしたちは祈りを通して、どのように神と会話し、答えを認識し、信仰深く歩めばいいのかをほんとうに理解しなければなりません。

神が祈りを聞いてくださらないと感じるときは、個人的な成長が必要なかもしれません。次のように自問してみるとよいでしょう。「わたしは清いだろうか」「わたしの動機はふさわしいだろうか」「御父が望まれることを喜んで行おうとしているだろうか」² それらの質問にすべて「はい」と答えられれば、「主なるあなたの神は……あなたの祈りに答えを与え」てくださると信頼することができます（教義と聖約 112：10）。ただ、答えは、はっきりとは分からないこともあれば、予想もしない方法で与えられる場合もあるということを覚えておいてください。

上の質問の中で、「いいえ」と答えたものがあっても、まだ遅くはありません。御霊を受けられるようになるために必要であれば、生活を変えましょう。促しを受けたら、喜んで従うようにしましょう。

人によって答えの受け方が違うということを忘れないでください。どうしたらあなたが答えを認識できるかを、聖霊から教えていただけるように、祈ってください。答えを認識するのは、初めは難しいかもしれませんが、ほかの能力と同じように、「訓練によって完璧になる」のです。天の御父がいつも聞いてくださっているという信仰を持ち、信頼しましょう。

注

1. マタイ 7：7；ヤコブの手紙 1：5 - 6；アルマ 33：4 - 11；教義と聖約 8：1 - 2 参照
2. リチャード・G・スコット「祈りの答えを知る」『聖徒の道』1990年1月号、31 参照



御霊に耳を傾ける

聖霊に耳を傾けましょう。人が聖霊の声を聞く方法は様々です。あなたは小さな細い声を聞こうとしても、もしかしたら促しは「気持ち」として与えられるかもしれません。わたしは、聖霊はわたしたちに必要なことをすべて教えてくださると知っています。ただ耳を傾ける必要があるのです。

エリス・G, 13才 (カナダ, アルバータ州)

疑問への答え

かつて、教会員ではない人とデートに行くべきかすごく悩んでいました。ある日曜日の聖餐会で、一人の姉妹がわたし個人に向けて話してくれているように感じられました。その瞬間、主がわたしの祈りにこたえてくださったという確信を受けました。それまでは、どうすべきか迷っていましたが、そのときに聖霊による慰めを受け、わたしの心は喜びと勇気で満たされました。神はわたしたちの気持ちや思い、聖句を通して、さらには教会での話者を通して、答えてくださるのです。

カレン・V, 19歳
(ブラジル, ミナスジェライス州)



自分が何者であるかを忘れない

祈りによって、心に平安や安堵、愛を感じることができると、神がわたしたちの祈りを聞いてくださっていると知っています。天の御父は、日々の生活における多くの危険からわたしを救い、家族を守ってくださっているのです、御父からの愛を感じることができます。学校に行く前に、わたしはいつも若い女性のテーマを言うようにしていますが、それによ

て自分が御父の娘であり、愛されていることを覚えていることができます。

ニコル・M, 19歳 (ペルー, リマ)



子供のいのり

わたしは、初等協会の「子供のいのり」という歌の次の歌詞から、天のお父様がわたしの祈りを聞いてくださっていると知っています。(『子供の歌集』6)「お父様、子供たちの祈りを聞いてくださるの？ 天はとても遠い[と言う人もいます]、でもわたしは祈[るときに天を近くに感じ]ます。」この歌を思い出すときに、天のお父様が聞いてくださっていることがわかります。なぜなら、御霊と、天のお父様のわたしに対する無限の愛を感じる事ができるからです。お父様がわたしを愛してくださっていることを思い出すときに、慰めを受けて、お父様がわたしの祈りを聞いてくださっていると知ることができます。

イレーン・B, 16歳
(アメリカ合衆国, ノースカロライナ州)

神への信頼

天のお父様は、わたしたちの祈りをいつも聞いておられますが、わたしたちが望んでいるタイミングや方法でこたえられないために、祈りにこたえてくださらないと感じることがあります。わたしたちは自分の思いを御心みこころに従わせて、天のお父様がわたしたちにとっての最善の道を御存じだという信仰を持つ必要があります。お父様はわたしたちを愛しておられ、祈りの答えを通してわたしたちが学び、成長できるようにいつも助けてくださいます。

モーサヤ・M, 17歳
(アメリカ合衆国, ユタ州)

求めなさい。
そうすれば、与えられるであろう。

わたしたちが信仰をもって熱心に祈り求めれば、神はいつもわたしたちの祈りを聞いて、こたえてくださると、聖文から教えられています。神がわたしたちの祈りを聞いてくださっているという確認として、心の中に平安と安らぎを感じることができます。また、御心に従うときに、何も心配する必要はないと感じます。神が祈りを聞いてくださっているか分からないときは、聖典から導きを求め、読んだことが真実かどうか尋ねる必要があります。

コンスタンサ・L, 20歳 (チリ, ビオビオ州)

尋ねてみる

以前に、神が自分の祈りをほんとうに聞いてくださっているか分からなかったときに、心の中に答えを感じました。だれかが祈りについて証あかしをするのを聞いて、聖霊を感じる事ができました。もう一つのアドバイスは、両親やビショップ、ワードのほかの会員に聞いてみることです。このことについて助けを求めて祈ることもできるでしょう！

ジョシュア・S, 13歳
(アメリカ合衆国, オレゴン州)



決して諦めない

「従順になり、かつて御霊みたまを感じたときのことを思い出し、信仰をもって祈りましょう。答えが与えられ、救い主の愛と平安を感じるようになるでしょう。思ったほど早くはなく、望むような形ではないかもしれませんが、答えは必ずあります。諦めてはなりません。」

七十人 ジェームズ・B・マルティノ長老
「主に頼れば答えが見つかる」
『リアホナ』2015年11月号, 58-60

心から祈る

祈った後で、心に感じる気持ちや思いに耳を傾けることができます。その中の一つが、祈りの答えかもしれません。わたしたちが誠心誠意祈るならば、天の御父はわたしたちが示す信仰に応じてこたえてくださいます。わたしたちの興味をただ満たすためにはおこたえになりません。

ジーンクラウド・N・, 16歳
(コンゴ民主共和国, 中央カサイ州)

次回の質問

「ほかの人々について
不親切または
不適切な話をしないよう、
どのようにして
友人に頼むことが
できるでしょうか。」

あなたの意見と、希望する場合は高画質の写真を、2017年5月15日必着で liahona.lds.org からお送りください。「原稿を投稿する」をクリックしてください。電子メールの場合は liahona@ldschurch.org までお送りください。

その際、次の情報を含めてください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載を許可するというあなたの同意文(18歳未満の場合は保護者の同意文も必要です(電子メール可))。

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

アンドレイ と 悪い言葉

ジュリー・C・ドナルドソン
本当にあったお話をもとに書かれました。

「くい改めて、もっとよくなって、いのります」

(『子供の歌集』[英語] 98)

「自分はんぼうな言葉を使わないから、みんなよりえらいと思ってるだろう。」休み時間にニコライからそう言われて、

「そんなことないよ」とアンドレイは答えました。

「じゃあ1回くらい、悪い言葉を言ってみろよ。1回くらいならいいだろ。何も変わらないさ。

みんな使ってるんだから。」

アンドレイはかたをすぼめて、

「ぼくはただ使いたくないんだ」と言いました。

アンドレイは神様のみ名をきずつけるようならんぼうな言葉を使うのは間違っているし、せいいいを遠ざけてしまうと知っていました。アンドレイはせいいいにとともにいただきたかったので、らんぼうな言葉を使いませんでした。

アンドレイは転校したばかりで、6年生のクラスでアンドレイと友達になりたいのはニコライだけでした。でも、ニコライは毎日毎日、らんぼうな言葉を使うように言ってきました。アンドレイは毎日毎日、いやだといものが面倒になってきました。それに、ニコライが

友達でなくなってしまうと、自分は一人ぼっちになってしまうのが心配でした。

放課後、「1回でいいかららんぼうな言葉を言ってみろよ」と、ニコライが言いました。「そしたらもうほうっておいてやるよ。」

アンドレイはうるさく何度も言われるのがいやになってしまい、1回だけらんぼうな言葉を使ってしまいました。それほどひどくない言葉を。

ニコライはうなずきながら、「よし、これで仲間だ」と言いました。

それからというもの、ニコライのほかの友達もアンドレイに話しかけるようになりました。休み時間にはアンドレイと一緒に昼ご飯を食べたり、



フットボールをしたりするようになりました。でも、ニコライの仲間と一緒にいるのは、砂地獄に足をふみ入れるようなものでした。みんなと付き合えば付き合うほど、みんなと同じように話したり行動したりするようになりました。それに全員がらんぼうな言葉を使いました。それもおたがいにあざ笑い、ぶじよくし合っていました。先生について、ひどいことを言いました。おこって意地悪なことをたくさんしました。ゆっくりと、アンドレイは前よりもよくおこるようになり、いろいろな理由を見つけては、神様の名をきずつけるような、らんぼうな言葉を使うようになりました。

あるばん、お父さんとお母さんが出かけているとき、アンドレイとお姉さんのカーチャがどの番組を見るかで言い合いになりました。アンドレイが考える間もなく、らんぼうな言葉が思わず出てしまいました。

カーチャはショックを受けた様子でした。「お母さんに言うわ。」

アンドレイは自分の部屋にかけて行き、ドアをバタンとしめました。みんなどうしたのでしょうか。なぜいつもアンドレイをおこらせるのでしょうか。両親が帰って来たとき、アンドレイがドアをいきおいよく開けると、カーチャが「お母さん、アンドレイったら、わたしにらんぼうな言葉を言ったのよ」と言う声が聞こえました。

「何ですって？」お母さんは、おどろいた声で言いました。「アンドレイは、そんな言葉は使わないわ。」

アンドレイはドアをしめ、ベッドにぱったりとたおれこみしました。らんぼうな言葉を使い始めてから、自分がどれほど変わってしまったかについて考えました。もう長いこと、せいいいを感じなくなっていました。


アンドレイはベッドの横にひざまずいていました。「愛する天のお父様、今まで意地悪でおこってばかりでほんとうにごめんなさい。神様の名をきずつけるような、らんぼうな言葉を使い始めてごめんなさい。もっといい子になります。」

アンドレイがいのると、温かい気持ちが心にあふれました。らんぼうな言葉を使い始めてから初めて、ほんとうの幸せを感じました。神様が自分を愛しておられることが分かり、せいいいを感じることができました。ゆるされたと感じ、自分は変えられるし、良くなれると分かりました。

いのった後で、アンドレイはお母さんにほんとうのことを話し、カーチャにあやまりました。それから、アンドレイは気分が良くなりました。くい改めるのは気持ち良いことでした。



次の日、学校でアンドレイはニコライの仲間と昼ご飯を食べませんでした。その代わりに、知らない友達のとりにすわりました。時間はかかるでしょうが、自分と同じような、らんぼうな言葉を使わない、幸せな、良い友達を見つけられると知っていました。■
このお話を書いた人は、アメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。



チャレンジ

「わたしは天父とイエス・キリストの名を尊びます。わたしは神の名を汚したり、らんぼうな言葉づかいをしたりしません。」(わたしの福音の標準)

紙の片面に、良い言葉を使ったり聞いたりすると、どのような気持ちになるかを文章で書いたり、絵でかいたりしてください。そのうらに悪い言葉を使ったり聞いたりするとどのような気持ちになるかを文章で書いたり、絵でかいたりしてください。

レビ 19:12 を読んでください。天のお父様とイエス・キリスト様のみ名をそんけいの気持ちで使うことはなぜ大切なのでしょうか。

親や指導者に、なぜ良い言葉を使う必要があるのか、またどのような祝福を受けてきたかを聞きましよう。

わたしの目標は、

_____です。





十二使徒定員会
デビッド・A・
ベドナー長老

どうすれば 家族を強めることが できるでしょうか



家族を愛していることを伝え、行動でめめしましょう。



せいれいによって真実だと知っていることについて、あかしをしましょう。あなたのあかしを、いちばん愛している人々に伝えましょう。



家族のいのりと聖文研究に喜んで参加しましょう。進んで家庭の夕べに参加し、楽しいものにしましょう。



イエス・キリストの回復された福音をよく学び、福音にしたがった生活をし、福音を心から愛しましょう。



ちゅうおうしゅうとうかいかいちょう
中央初等協会会長

ジョイ・D・
ジョーンズ

毎日 神殿に 備える

わたしが9才のとき、コーラー姉妹というすばらしい初等協会の先生がいました。わたしはとてもはずかしがり屋だったのですが、先生がとてもおだやかだったので、先生と一緒にいるのが大好きでした。ある日先生はわたしたちに1まいの紙をわたしました。わたしたちはみんな、大きくなったらやりたいことを書きました。わたしは、「大学に行って、神殿で結婚する」と書きました。わたしはそれを、クローゼットのドアにテープではり付けました。夜になると、まどから街灯の光が入りました。自分の書いたメモを見ると、自分が神殿に行きたいと思っていることを思い出しました。

そのころ、神殿は世界中に12しかありませんでした。全部の神殿に行きたいと思いました。

両親が旅行の計画を立てるときはいつも、家族を神殿に連れて行ってくれました。アメリカ合衆国のオレゴン州に住んでいたのですが、一番近い神殿は965キロはなれたカナダのアルバータ州にあるカードストーン神殿でした。わたしたちの車にはエアコンがなかったので、きょうだい3人で後ろの席にすわり、まどの外にぬれた手ぬぐいをぶら下げて冷たくし、それを首につけて冷やしました。

ようやく神殿を見たときは感動しました。そこでどんなことが行われているかはよく分かりませんでしたが、神殿から出て来た両親は、いつも幸せそうでした。神殿が大切であ



ることが分かりました。主の宮であることが分かりました。(写真で、白いシャツを着ているのがわたしです。)

12才になったわたしは、いくつかの神殿でバプテスマを受けました。将来の夫になる人に会ったとき、彼も神殿が大好きであることが分かりました。わたしたちは、ユタ州のマンタイ神殿で結婚しました。

みなさんは毎日神殿にそなえることができます。行けるときに、神殿に行ってください。神殿のかべにふれてください。孫のジャレットは11才のとき、毎週日曜日になると、かれのお父さんと一緒に家族歴史の作業をしました。たくさん先祖の名前を見つけました。12才になった今、その先祖のために神殿でバプテスマを受けています。

神殿にいるとき、イエスが歩まれた道を歩むことができるのです。神殿は主の宮です。神殿に入って神の愛を感じるそなえができるように、毎日天のお父様に助けをいのり求めてください。■

かがやくスター

ジェーン・マクブライド

ほんとうにあったお話をもとに書かれました。

「あなたと初等協会に行くのは楽しいな」(『子供の歌集』
[英文] 254)

スターは着ている服をたぐりよせました。教会にワンピースを着て行くのはまだ変な感じがしました。前に行っていた教会では、女の子は日曜日にズボンや半ズボンをはいていたからです。でも今の教会ではちがいます。スターとお母さんはバプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になったばかりでした。

スターは鏡にうつった自分を見てため息をつきました。正式に会員になって初めて教会に行くのを楽しみにしながらも、きんちょうもしていました。前は、教会の間はずっとお母さんと一緒にいたが、これからは初等協会に行きます。

スターはそのことを考えて、目をぱちくりさせました。もし、なじめなかったらどうしよう。みんなからきらわれたらどうしよう。

「スター？用意はいい？」お母さんがよびました。

スターは階段を下りて行き、「これでいいかしら？」と聞



きました。

お母さんにはっこりしました。「すてきよ。」スターはおどけた顔をして、「だってお母さんだから、そう言うの当たり前でしょ。」

「あなたの言うとおりのよ。そう言うのは当たり前前よね。だって、ほんとうのことですもの。」

スターはちょっとにっこりしました。お母さんはいつもそうやって、スターをいい気持ちにさせてくれました。それでも、むねのざわざわはおさまりませ

んでした。だれも自分に話しかけたくないと思ったらどうしましょう。学校では友達いましたが、だれも新しい教会の会員ではありません。教会と一緒にいける友達がひとりでもいたらいいのになと思いました。

「やらなきゃいけないことを思い出したわ」と、スターはお母さんに言いました。

スターは階段を上がって、自分のベッドの横にひざまずきました。「天のお父様、友達ができるように助けてください。宣教師が教えてくれたことはほんとうだと信じています。でもこわいです。」

スターはひざまずいたまま、耳をすましました。しばらくすると、とても温かい、平安な気持ちを感じて、もうきんちょうはなくなりました。

教会で、スターとお母さんは3人の小さな女の子のいる家族の横にすわりました。集会が始まる前、そのお父さんとお母さんは自己しょうかいをして、スターのお母さんと話し始めました。スターは女の子たちがイエス様のぬり絵ができるように助けました。

アンドリュースビショップがスターたちのところに歩いて来ました。「カニンガム姉妹！スター！今日お会いできて良かった。」ビショップはやさしい笑顔でそれぞれに握手をしました。スターは、教会のみんながどんなにいい人たちかをわすれていました。多分、友達是可以るでしょう。

せいさん会の後でスターは初等協会に行きました。スターはきんちょうしながらみんなをちらっと見て、すわりました。みんな話していて、スターには気づかないようでした。スターはがっかりしました。結局一人ぼちなのでしょうか。

ちょうどそのとき、スターと同じ年くらいの女の子が部屋に入って来ました。「あの子もきんちょうしているみたいだね」とスターは思いました。「話しかけてみようっと。」

スターは息を深くすと、その女の子のところに歩いて行きました。「こんにちは。わたしの名前はスターよ。ここは初めてなの。わたしと一緒にすわらない？」スターは息を止めました。女の子は友達になってくれるのでしょうか。

女の子の口もとが少し笑顔になりました。「わたしはサラよ。わたしもここは初めてなの。家族でオンタリオから引っこして来たばかりなの。」

「お母さんとわたしは2週間前にバプテスマを受けたの



よ」とスターは言いました。「何をすればいいのかわからなくて。」

サラの笑顔がもっとかがやきました。「じゃあ、一緒に考えましょう。」

スターとサラはクラスのみならず一緒にすわりました。時々スターがサラにほほえみかけると、サラは、ほほえみ返してくれました。スターは平安で幸せな気持ちを感じました。天のお父様がいのりにこたえてくださり、友達を見つけられるように助けてくださったことがわかりました。

クラスでは、先生がスターとサラに自己しょうかいをするように言いました。

スターは立ち上がると、「わたしはスター・カニンガムです。わたしとお母さんは2週間前にバプテスマを受けました」と言いました。スターはそう言ってからだまっていたが、新しい友達を見たとき、思わず笑顔になりました。「そして、彼女は友達サラです。」

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国コロラド州に住んでいます。

考えてみましょう

教会に初めて来た人や、まだなれていない人を歓迎するには、どうしたらよいでしょう。

光 となる

エリザベス・ピンボロー

愛する

うわさ話をしない

ゆるす

助ける

はげます

まねく

耳をかたむける

友達になる

「あなたがたの光をかかげて、世の人々にかがやきわたるように
しなさい。見よ、あなたがたのかかげる光とは、わたしである。」
(3 ニーファイ 18:24)

わたしたちはほんとうの友達になることによって、人々の光
なることができます。以下に書かれているアイデアを読んで、
さらにみなさんのアイデアをもちこんでください。愛をしめしたいと
思う人の名前を書くたびに、太陽に色をぬっていきましょう。

1. 人々を愛する — 人々の生活に大きなえいきょうをあたえる
ことができます。キリストは人々を愛しておられます。そ
の愛をしめすようにしてください。

だれを愛しますか — _____

2. ゆるす — だれかにきずつけられたら、その人の目で物事
を見るようにしましょう。ゆるすなら、かれらの心を和らげ
ることができます。

だれをゆるしますか — _____

3. はげます — 友達の長所をほめましょう。たとえ足りない
所があっても、友達の良い所に目を向けましょう。最高の自
分であることも、友達の助けになります。

だれをはげめますか — _____

4. せいいいに耳をかたむける — あなたの言葉によって、あま
り良くないじょうきょうが良くなることもあります。せいい
いは何を言ったらよいか、どのように親切をしめしたらよ
いか分かるように助けてくださいます。

だれに親切にしますか — _____

5. 決してうわさ話をしない — 不親切な言葉は人をきずつけ
ます。人を信じ、否定的な思いには目を向けないようにして
みましょう。

だれを信頼しますか — _____

6. 友達を助ける — 友達のスポーツの試合や学校の出し物
を見に行くだけでも、愛を感じてもらうことができます。

だれを助けますか — _____

7. 福音について学ぶように人々をまねく — たとえ人々があ
なたの言うことを受け入れなくても、あなたは彼らを心にか
けていることをしめすことができたのです。

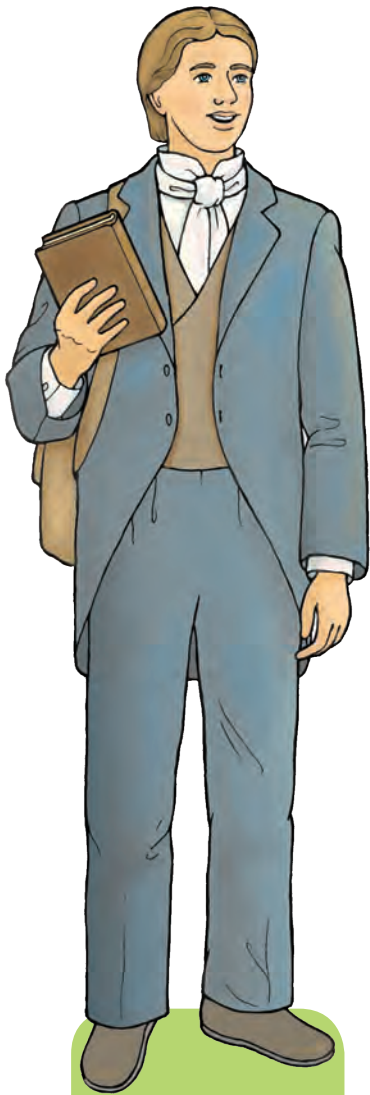
だれをまねきますか — _____

8. いろいろな人と友達になる — 人はたくさん良いもの
を持っています。キリストはどんな人でもすべての人を助け、
愛されました。

だれと友達になりますか — _____

福音を分かち合う

きょうかいせいし とうじょうじんぶつ えつか きょうかいせいし ものがたり わあ
教会歴史の登場人物の絵を使って、教会歴史の物語を分かち合いましょう！



サミュエル・スミス



ハイラム・スミス



パーリー・P・プラット

きょうかい そしあ あと てん とうさま ひと ふくいん あ
教会が組織された後、天のお父様はすべての人に福音について聞いてほしいと思われました。最初の宣教師はジョセフ・スミスの弟のサミュエルでした。ジョセフのお兄さんであるハイラムも、人々に福音について教えました。ある日、パーリー・P・プラットという人が一日中モルモン書を読んでいたことをハイラムに話しました。ハイラムはかれに教会についてもっとたくさんのお話を教え、かれはバプテスマを受けました。それからパーリーは伝道にも行きました。そして教会の指導者になりました。

liahona.lds.org で、もっとたくさんのお話に出てくる教会歴史の登場人物の絵が見られます。



イエス

かんが について考える

リンゼイ・タナー

ほんとうにあったお話をもとに書かれました。

ミアはわくわくしていました。ミアにとって初めての教会です！ミアの家族はせんきょうしがこの教会について話してくれるのを聞いて、みんなで行ってみることにしました。

ミアは周りを見回しました。テーブルの上に白いぬのがありました。何かその下にあります。

「あのぬのの下には何があるの？」ミアはせんきょうしの一人に聞いてみました。

ハンソン姉妹はほほえんで答えてくれました。「せいさんよ。」

せいさん。むずかしい言葉です。せんきょ

うしがミアのお母さんとお父さんに話しているのを聞いたことがあります。でも何なのかはよく分かりませんでした。

みんなで歌を歌いました。二人の男の人がその白いぬのを持ち上げました。その下には、パンを入れたトレイが置かれていました。ミアはその男の人がパンをさくのをじっと見ていました。

歌が終わると、一人の男の人がおいのりをささげました。ほかの男の人たちがパンをみんなに配りました。

「このパンはイエスの体をおぼえておくためのものなの」とガルシア姉妹がささやきました。



ミアもパンを一きれ取りました。ミアはイエスが目の前に立っておられるすがたを思いうかべました。

そして、また別のおいのりがささげられました。男の人たちは今度は、水が入った小さなカップをのせたトレーを回し始めました。

「この水はイエスの血を覚えておくためのものよ」とガルシア姉妹がささやきました。「イエスはわたしたちを愛しているから、わたしたちのために死んでくださったのよ。」

ミアは水のカップを手に取りました。イエスがどれほど自分のことを愛してくださっているのか考えてみました。イエスがだきし

めてくださっているような気持ちになりました。

後で、ミアはハンソン姉妹からイエスの小さな絵をもらいました。「イエスを覚えておくためにパンを食べて、水を飲んで、イエスにしたがうことを約束するのよ。」ハンソン姉妹はほほえみながら言いました。「せいさんについてどう思った?」

ミアはイエスの絵を見ました。さっきの温かい気持ちを思い出して、ほほえみながら言いました。「すばらしかった! わたし、イエス様が大好き。」■

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国カリフォルニア州に住んでいます。

イエスはせいさんをあたえてくださった

キム・ウェブ・リード



イエスは地上での時間がもうすぐ終わろうとしているのをごぞんじでした。最後のばんさんのために使徒たちをお集めになりました。イエスは使徒たちにせいさんをあたえ、いつもご自分のことを覚えるようにと言われました。



イエスはいのるために園に行かれ、すべての人のつみや悲しみのために苦しみました。そして十字架の上でなくなり、はかにおさめられました。

イエスがなくなられた次の日曜日、
 何人かの女性が
 はかにやってきました。
 入り口の石がどかされ、
 はかにはだれもいませんでした。
 イエスはどこに
 おられたのでしょうか。



イエスは生き返られたのです。マグダラのマリヤがイエスに会いました。
 イエスは使徒たちのところに行かれました。ご自分が天にもどられた後、
 かれらが福音を教えられるようにそなえるためでした。



わたしはせいさんを受けるとき、イエスを思い出します。わたしがもう一度生きることができるように、イエスがわたしのために生き、なくなり、そして復活されたことを思い出します。■



復活祭のユリ



美しい白い復活祭のユリを見るとき、イエスが復活されたすばらしい日を思い起こすことができます。

この絵には5本の白いユリがかかれています。

1本見つける度に、あなたがイエスについて学んだことを一つ言ってみましょう。





十二使徒定員会
ブルース・R・
マッコンキー長老
(1915 - 1985年)

神の力

信仰とは力であり、力は神権です。

神が神であられるのは、神がすべての信仰とすべての力とすべての神権を具現した御方であられるからです。神がお持ちの命は、永遠の命と呼ばれています。

わたしたちがどれだけ神のようになるかは、どれだけ信仰を持ち、神の力を得、その神権を行使するかにかかっています。そして、完全な意味で、また真の意味で神のようになったとき、わたしたちもまた永遠の命にあずかることになるのです。

信仰と神権は、いわば車の両輪の関係にあります。信仰とは力であり、力は神権です。わたしたちは信仰を得た後に、神権を受けます。そして、その神権を通して、信仰を育み、やがてすべての力を受けて、わたしたちの主に似た存在となります。

現世におけるこの生涯は、試しの時として定められているものです。この世の生涯を送る間に、自分の信仰を完全なものとし、神権の力の中で成長していくことは、わたしたちの特権です。

聖なる神権は、エノクの時代には、人を完全な者にするうえで、ほかのいかなる時代にも増して大きな働きをしていました。この神権は、当時エノクの位に従う神権という名称で知られ(教義と聖約 76:57 参照)、エノクとその民がその身を変えられたのも、この神権による力のためでした。つま



り、エノクの民がその身を変えられたのは、彼らが信仰を持ち、その神権の力を行使していたからだったのです。

主が永遠の聖約を交わされた相手というのが、このエノクでした。その聖約とは、神権を受けた者はことごとく、信仰によって、万物を統治し、制御する力を授かり、国々の軍勢に敢然と立ち向かう力を授かり、そして、主の前にあって栄光と昇栄のうちに立つ力を授かるというものです。

メルキゼデクも同じような信仰を持った人で、「この民は義を行い、天を得、エノクの町を求めた」と書かれています(ジョセフ・スミス訳、創世 14:34)。
……

それでは、神権の教義とは何でしょう。また、わたしたちは主の僕としてどのように生きるべきなのでしょう。

この教義とは、父なる神が、栄光を受け、完成され、昇栄された御方であって、あらゆる力と権能と支配力とを有し、すべての事柄を御存じで、す

べての属性において無限であって、家族という単位で生活しておられるということです。

すなわち、永遠の御父は、御自分の信仰が完全であって、その神権が無限であるがゆえに、栄光と完全と力とに満ちた最高の状態を享受しておられるということです。

さらに、神権とは神の力を表す名称そのものであって、もしわたしたちが神のようになることのできる存在であるならば、わたしたちは神が今行使しておられるように、神の神権、すなわち力を受けて、それを行使しなければならないということです。

加えて、わたしたちが、信仰によって力を得、それによって、物質的にも霊的にも、万事を統御、支配し、奇跡を行って完全な生活を送り、神の前に立って、神と似た者となるということです。これはわたしたちが神の信仰と神の完全さと神の力を得て、言い換えれば、完全な神の神権を得て初めて可能になるからなのです。

これがまさに神権の教義なのです。これ以上に大いなるものは実在もせず、その可能性すらありません。これこそ、信仰と義によって得ることのできる力なのです。

まことに、神権には力があります。それは、わたしたちが用いるために身につけたいと願っている力であり、わたしたちとその子孫のうえに永遠にとどまってほしいと心から祈り求める、その力なのです。■

「神権の教理」という題で語られた中央神権部会の説教から。『聖徒の道』1982年7月号、57-61。表記は現代の用法に改めてあります。



「わたしには他の羊がある」
エルスペース・ヤング画

復活された主は、アメリカ大陸とその他の地にいる、主の「他の羊」(3 ニーフアイ 15:21)を訪れられた。ニーフアイ人は「主の両手と両足の釘の跡に触れた。彼らは一人ずつ進み出て、全員がこのようにし、自分の目で見、自分の手で触れ、この御方が、将来来られると預言者たちによって書き記された主であられることを、確かに知って証した。」(3 ニーフアイ 11:14 - 15)

今月号のその他の記事

ヤングアダルト

祝福師の祝福 を理解する

祝福師の祝福は、人生で起こるすべてのことを教えるわけではありませんが、天の御父がわたしたち一人一人のために備えておられる偉大な幸福へと導く地図を与えてくれます。



44
ページ

青少年



58
ページ

彼らは **主** を見たのです

彼らは、復活されたキリストの証人でした。わたしたちは今日、証人としてどのように立つことができるでしょうか。

子供

イエスはせいさんをあたえてくださった

わたしたちは毎週聖餐を取りますが、それはなぜなのか、子供たちは知っているでしょうか。



76
ページ